

国衙・郡衙・古寺跡等
遺跡詳細分布調査報告書 Ⅲ

1991・3

宮崎県教育委員会

国衙・郡衙・古寺跡等
遺跡詳細分布調査報告書 Ⅲ

1991・3

宮崎県教育委員会

序

古代における地方政治の中心的役割を果たした政庁跡(国衙・郡衙)等は本県においては国分寺跡を除いてその位置は明確にされていません。所在地の目安となる奈良・平安時代の布目瓦は、県内数ヶ所出土していますが、このような遺跡は、近年都市化が進行し未調査のまま滅失する恐れがあります。そのため、早急に調査を実施し、その所在地、性格、範囲等を明らかにし、遺跡保護のための基礎資料を得ることを目的として、宮崎県教育委員会では、昭和63年度から平成2年度の3ヶ年、国庫補助を受けて国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査を実施しました。その結果、稚児ヶ池と都萬神社に挟まれた寺崎地区一帯が国府の可能性が非常に高まるとともに国分寺でもかなりの成果があげられました。

本書は、3ヶ年の分布調査の成果を中心にまとめたものであります。今後の調査研究の基礎資料として各方面でご活用いただくとともに、保護啓発のための一役となることを期待いたします。

1991年3月

宮崎県教育委員会

教育長 児玉郁夫

例 言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が国庫補助を受けて、昭和63年度から平成2年度の3ケ年に実施した国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査の本報告書である。
2. 分布調査及び試掘調査は、第I章に示す調査組織に基き、北郷泰道・石川悦雄・永友良典・日高孝治・長津宗重が担当した。遺物の実測・拓本・トレースは家村真澄・伊集院康子・金子悦子・金丸琴路・永峰まり子・松浦由美・湯地千恵子・藤崎順子が行なった。
3. 本書の執筆は、北郷・日高・長津が分担し、編集には長津が当たった。
4. 調査にあたっては、調査指導委員会の委員の先生方に御指導をいただいた。また西都市教育委員会・佐土原町教育委員会をはじめ関係市町村教育委員会、県立妻高等学校、西都原資料館にはいろいろと御協力いただき、記して感謝する次第である。
5. 土器・瓦・土層の色調は農林省農林水産技術会事務局監修の標準土色帖による。本報告の方位は磁北である。またレベルは海拔絶対高である。
6. 分布調査及び試掘調査で出土した遺物は、県総合博物館埋蔵文化財センターにおいて保管している。

本文目次

序

例言

第Ⅰ章	はじめに	(長津)	1
第1節	調査の経緯と組織		1
第2節	調査の概要		2
第Ⅱ章	分布調査の結果		3
第1節	西都市所在の遺跡	(北郷)	3
第2節	佐土原町所在の遺跡	(日高)	8
第3節	宮崎市所在の遺跡	(長津)	12
第Ⅲ章	試掘調査の結果		13
第1節	昭和63年度試掘調査	(長津)	13
第2節	平成元年度試掘調査	(北郷)	13
1	日向国分寺跡		13
2	上尾筋遺跡		34
第3節	平成2年度試掘調査	(長津)	36
1	寺崎遺跡		36
第Ⅳ章	まとめ	(長津)	55

挿図目次

第1図	西都市調査地周辺の地形—布日瓦等出土分布図	4	第17図	国分寺跡出土瓦実測図(V)	26
第2図	西都市調査地周辺の地形—試掘調査地点	5	第18図	国分寺跡出土瓦実測図(VI)	27
第3図	西都市内分布調査出土遺物実測図	6	第19図	国分寺跡出土土器実測図	31
第4図	三宅分布調査出土遺物実測図	7	第20図	上尾筋遺跡遺構実測図	35
第5図	佐土原町分布調査地形図	8	第21図	平成元年度試掘トレンチ設定図(上尾筋遺跡)	36
第6図	佐土原町分布調査主要遺跡周辺地形図	9	第22図	平成2年度試掘調査トレンチ設定図	37
第7図	佐土原町内分布調査採集遺物実測図	11	第23図	寺崎遺跡トレンチ配置図	38
第8図	下村窯跡・下北方出土遺物実測図	12	第24図	寺崎遺跡出土瓦実測図(I)	40
第9図	平成元年度試掘調査トレンチ設定図(日向国分寺)	14	第25図	寺崎遺跡出土瓦実測図(II)	42
第10図	日向国分寺跡3～8トレンチ遺構実測図	15～16	第26図	寺崎遺跡出土瓦実測図(III)	44
第11図	6トレンチ(南北区)柱穴及び土層断面実測図	17	第27図	寺崎遺跡出土瓦実測図(IV)	45
第12図	日向国分寺跡遺構等実測図	18	第28図	寺崎遺跡出土瓦実測図(V)	46
第13図	国分寺跡出土瓦実測図(I)	21	第29図	寺崎遺跡出土瓦実測図(VI)	47
第14図	国分寺跡出土瓦実測図(II)	23	第30図	寺崎遺跡出土瓦実測図(VII)	48
第15図	国分寺跡出土瓦実測図(III)	24	第31図	寺崎遺跡出土土器実測図	53
第16図	国分寺跡出土瓦実測図(IV)	25			

表目次

表1—(1)	国分寺跡瓦観察表	28
表1—(2)	国分寺跡瓦観察表	29
表1—(3)	国分寺跡瓦観察表	30
表2	国分寺跡土器観察表	32・33
表3—(1)	寺崎遺跡瓦観察表	50
表3—(2)	寺崎遺跡瓦観察表	51
表3—(3)	寺崎遺跡瓦観察表	52
表4	寺崎遺跡土器観察表	54

図版目次

図版1	西都市調査地周辺の地形	57	図版4	日向国分寺跡SB1	60	図版7	上尾筋遺跡2トレンチ	63
図版2	日向国分寺跡11トレンチ	58	図版5	日向国分寺跡SB1・SB2	61	図版7	寺崎遺跡	64
図版3	日向国分寺跡SB1・SB2	59	図版6	上尾筋遺跡1トレンチ	62			

第 I 章 はじめに

第 1 節 調査の経緯と組織

古代における地方政治の中心的役割を果たした政庁跡(国衙・郡衙)は本県では全く調査されておらず、国分寺跡のみが昭和23年と36年に調査されているだけで、その位置は明確にされていない。また所在地の目安となる奈良・平安時代の布目瓦は県内で13ヶ所(西都市6ヶ所、佐土原町3ヶ所、宮崎市2ヶ所、えびの市1ヶ所、延岡市1ヶ所)で表採されているが、その性格は不明であり、かつその周辺は近年、都市化が進行しつつあり、滅失の恐れがでてきている。そのため、早急にその所在地と範囲を明確にし、遺跡保護のための基礎資料を作成する必要がある。よって宮崎県教育委員会では昭和63年度から3ヶ年計画で国庫補助を受けて国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査を実施することとなった。

調査組織

調査主体

宮崎県教育委員会及び関係市町村教育委員会

指導監督

文化庁記念物課主任文化財調査官	河原 純之
主任文化財調査官	松村 恵司

調査指導委員会

福岡大学教授	小田富士雄
奈良国立文化財研究所主任研究官	山中 敏史
宮崎県文化財保護審議会会長	野口逸三郎
西都市西都原古墳研究所長	日高 正晴
宮崎県県史編さん室長	永井 哲雄
宮崎県立宮崎北高等学校教諭	阿萬 美水

調査員

県文化課埋蔵文化財係主任主事	北郷 泰道 (平成元年度担当)
主任主事	石川 悦雄
主任主事	長津 宗重 (平成2年度担当)
県総合博物館埋蔵文化財センター主任主事	永友 良典 (昭和63年度担当)

県総合博物館主任主事	近藤 協
県史編さん室主任主事	日高 孝治
西都市教育委員会社会教育課主事	蓑方 政幾
佐土原町教育委員会社会教育課主事	木村 明史
特別調査員	
鹿児島ラサール高等学校教諭	永山 修一
佐賀大学教育学部教授	日野 尚志

第2節 調査の概要

昭和63年度は布目瓦出土地周辺の分布調査を中心に、日向国府関連の文献調査及び国分尼寺跡推定地の諏訪遺跡（西都市）の試掘調査を実施した。

平成元年度は、調査指導委員会を上記のとおり組織し、平成元年7月10日～11日、平成2年2月6日～7日の2回委員会を開催し、調査の方法及び成果の評価について指導・助言を受けた。また特別調査員として永山修一氏に文献を踏まえた国衙・郡衙の南九州でのあり方について検討をいただいた。調査については、国府推定地及び国分寺・国分尼寺推定地の集中する西都市大字右松から大字三宅を重点的に分布調査を実施した。ほか、えびの市法光寺跡周辺についても実施している。また、西都市国分寺跡、大字三宅字尾筋の国府推定地について寺域及び遺構の残存状況の確認を目的とし試掘調査を実施した。

平成2年度は、当事業の最終年度であるので、佐土原町教育委員会が発掘調査を行った下村窯跡が国分寺の瓦・須恵器を供給した窯である可能性が高まったため、平成3年2月12日～22日には布目瓦が表採されたという佐土原町上田島・西上那珂の丘陵斜面の瓦窯の分布調査を実施した。また2年9月17日～10月24日と3年1月16日～3月30日には布目瓦の表採と立地の上から国府の有力な推定地である西都市大字右松字寺崎の試掘調査を重点的に実施した。調査指導委員会は平成2年12月19日、平成3年3月20日の2回開催し、調査の方法及び成果の評価について指導・助言を受けた。また平成3年2月12日～13日に特別調査員として永山修一氏に文献を踏まえた指導を、同年3月25日～26日に特別調査員として日野尚志氏に西海道の国府を踏まえた指導を頂いた。

第Ⅱ章 分布調査の結果

第1節 西都市所在の遺跡

各年度における分布調査の成果については、概要報告書⁽¹⁾にゆずり、ここでは概括的な遺跡の状況について述べる。

日向における国府、国分寺、国分尼寺等が立地すると推定される地域は、標高約12mの沖積平野部と標高約50mからの西都原古墳群の主要部の立地する西都原台地とに挟まれた標高約20～26mの中間台地に当たる(第1図、図版1)。

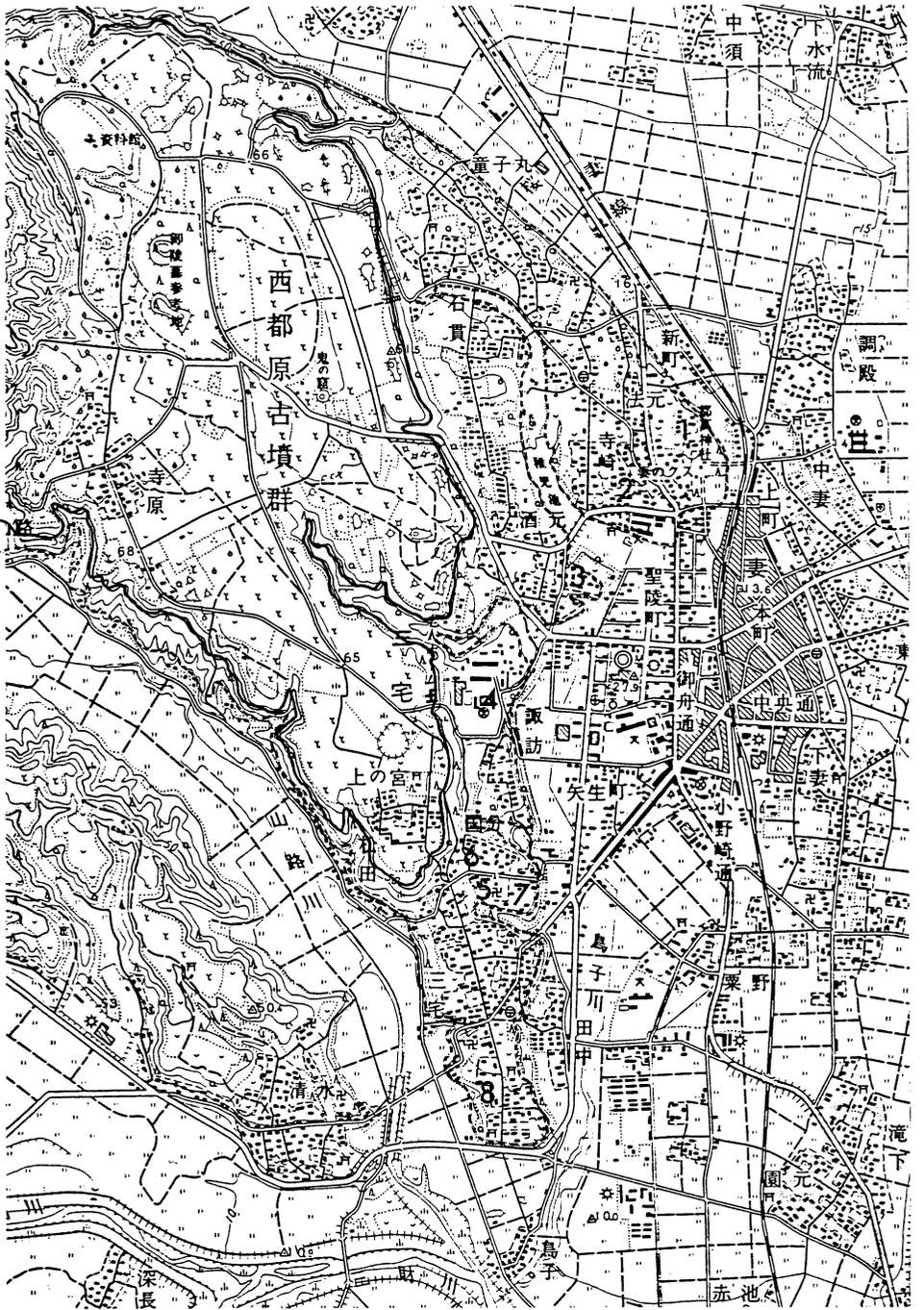
この中間台地には、幾つかの大小の谷が入り込み、遺跡の立地に地形的な制約を与えている。その最も大きなものが、現在の稚児ヶ池から北に湾曲して延び、児湯の池にいたる現在水田として利用される谷である。法元、寺崎地区は、この谷によって区切られた、沖積平野までの間に広がる中間台地であり、国府推定地の有力候補とされる遺跡群がある。古墳時代から古代にかけての土師器、須恵器等の遺物が、まんべんなく表採され、多くの瓦の採集地点も確認されている(第1図1・2)。そして、西都市教育委員会の試掘調査の結果によれば、都萬神社周辺のトレンチからの出土は、格子目叩きの瓦が主体を占めたのに対して、西方の稚児ヶ池よりのトレンチからの出土は、縄目叩きの瓦が主体的であったとされる⁽²⁾。

一方、国分尼寺推定地の北側、国分寺跡の北と南側にも小さな谷が入り、逆に言えばそうした谷によって区画された地域に、寺の建立地が選択されたと見るべきであろう。布目瓦の出土の最も多い地区である(第1図)。

中間台地の南の先端部近くには、印鑰神社が位置している。そのため、国府推定地の一つとされ、平成元年度の県教育委員会及び市教育委員会の試掘調査によっても、布目瓦の出土が認められている。しかし、出土量としては少なく、分布調査及び試掘調査の成果から言えば、まず前方後円墳を始めとする古墳の一つの密集地帯(第1図)であり、弥生時代の有力な遺跡地が推定される場所でもある。

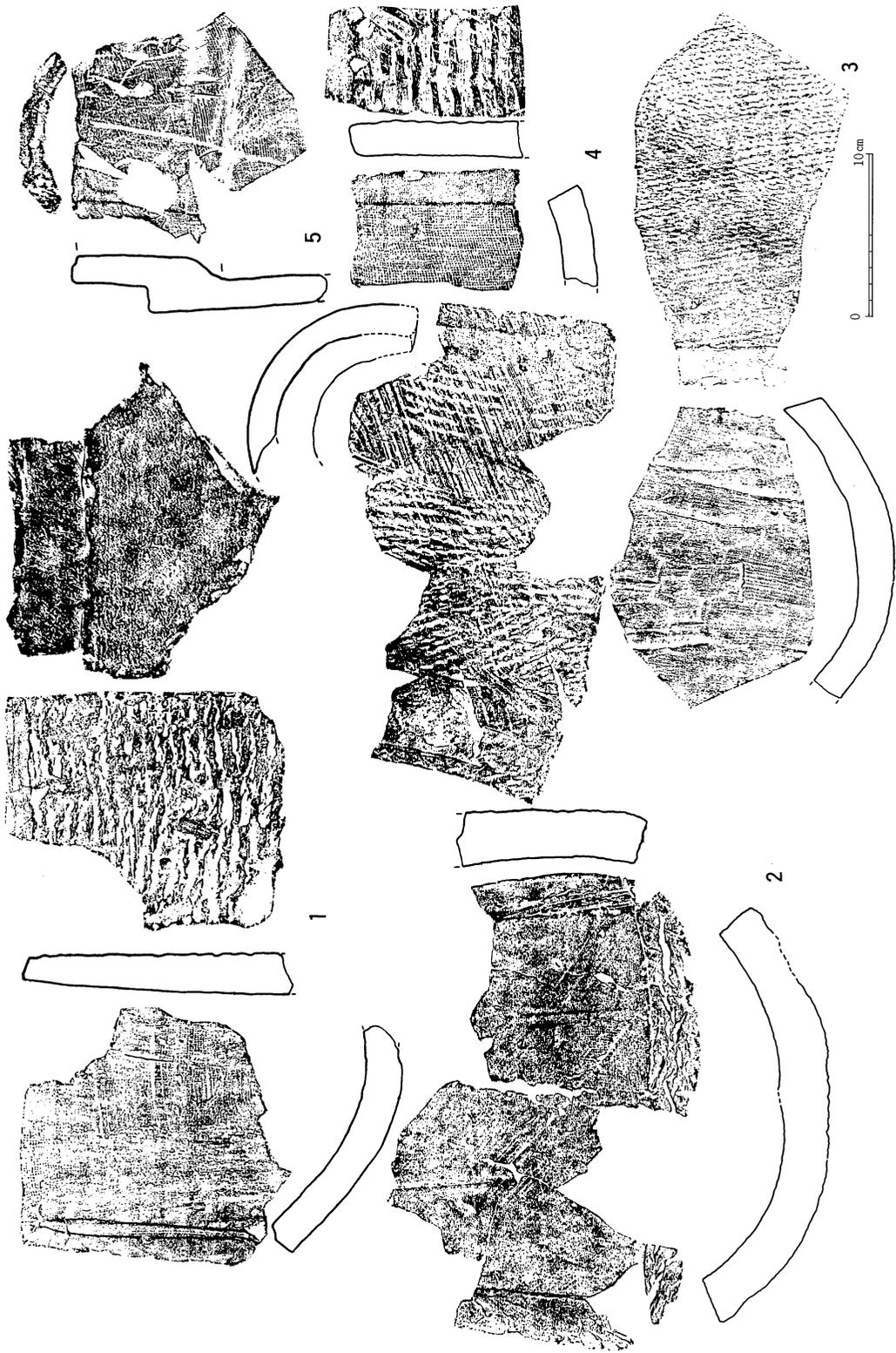
註

- (1) 宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告書』Ⅰ・Ⅱ
1989・1990年
- (2) 西都市教育委員会養方政幾氏のご教示による。

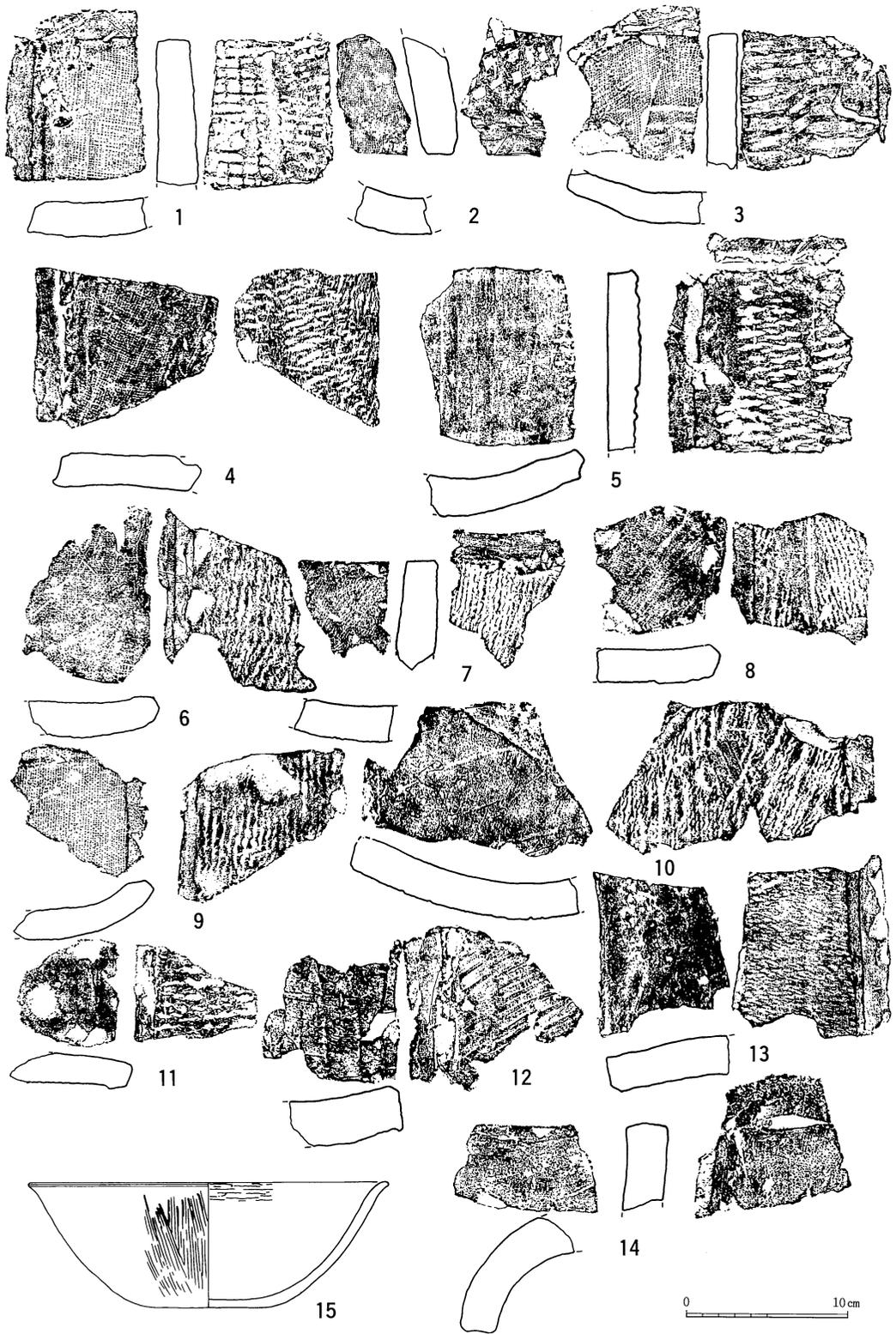


S-1 : 25,000

第1図 西都市調査地周辺の地形-布目瓦等出土分布図



第3図 西都市内分布調査出土遺物実測図



第4図 三宅分布調査出土遺物実測図



第6図 佐土原町分布調査主要遺跡周辺地形図

2. 主要遺跡の概要

① 叶迫遺跡 (第5・6図1)

この遺跡は、佐土原町教育委員会が実施した遺跡詳細分布調査の結果、古代の窯跡として確認された下村窯跡群の所在する谷部より尾根を一つ隔てた南側の谷部に所在する。谷の入口部分には下村川が流れている。

この谷部の北側の丘陵に小さく入り込んだ小谷の入口部分の水田で須恵器を採集することができた。(3・4) また、このほか窯体の破片と思われる遺物も採集された。

3は坏部の破片と思われるもので、内外面とも横方向のナデ調整である。4は甕の破片で、外面は格子目叩きで内面はナデ調整である。

本遺跡は、遺物や立地より、下村古窯跡群との関連性が強いと思われる。

② 堂ヶ迫遺跡 (第5・6図2)

本遺跡は、前述の下村古窯跡群とは国道219号線を挟んで西側の丘陵の谷部に所在する。

遺物は、谷部に作られた堂ヶ迫池の北側を巡る道沿いで布目瓦が2点採集された。(1・2) 1は丸瓦の破片で、凸面には横方向の縄目叩きが施されており、凹面は横方向の叩きの後布目痕を残すものであり、焼成時によるものか、やや歪んでいる。2も瓦の小片で、1と同様な調整が施されている。

この遺物に関連するような遺構は確認できなかったが、立地等を勘案すれば窯跡の可能性も考えられる。

③ 河原田遺跡 (第5・6図3)

本遺跡は、那珂小学校の西側の谷部に作られた河原田池の南側の塘の西側に伸びる丘陵先端に所在する。

遺物は、丘陵先端部とそれに接する水田で、須恵器及び窯体的一部分であると思われる破片が採集された。5～10は須恵器である。5は盤状の高坏の破片で杯部と脚部の接合部分である。6はつまみ付き蓋の破片であり、7は底部片であるが断面にかなりの気泡を含んでおり、焼き歪んだものと思われる。8～10は甕の破片で、外面は平行文、内面は同心円文の叩きが施されている。表面がかなり摩耗しているものもある。

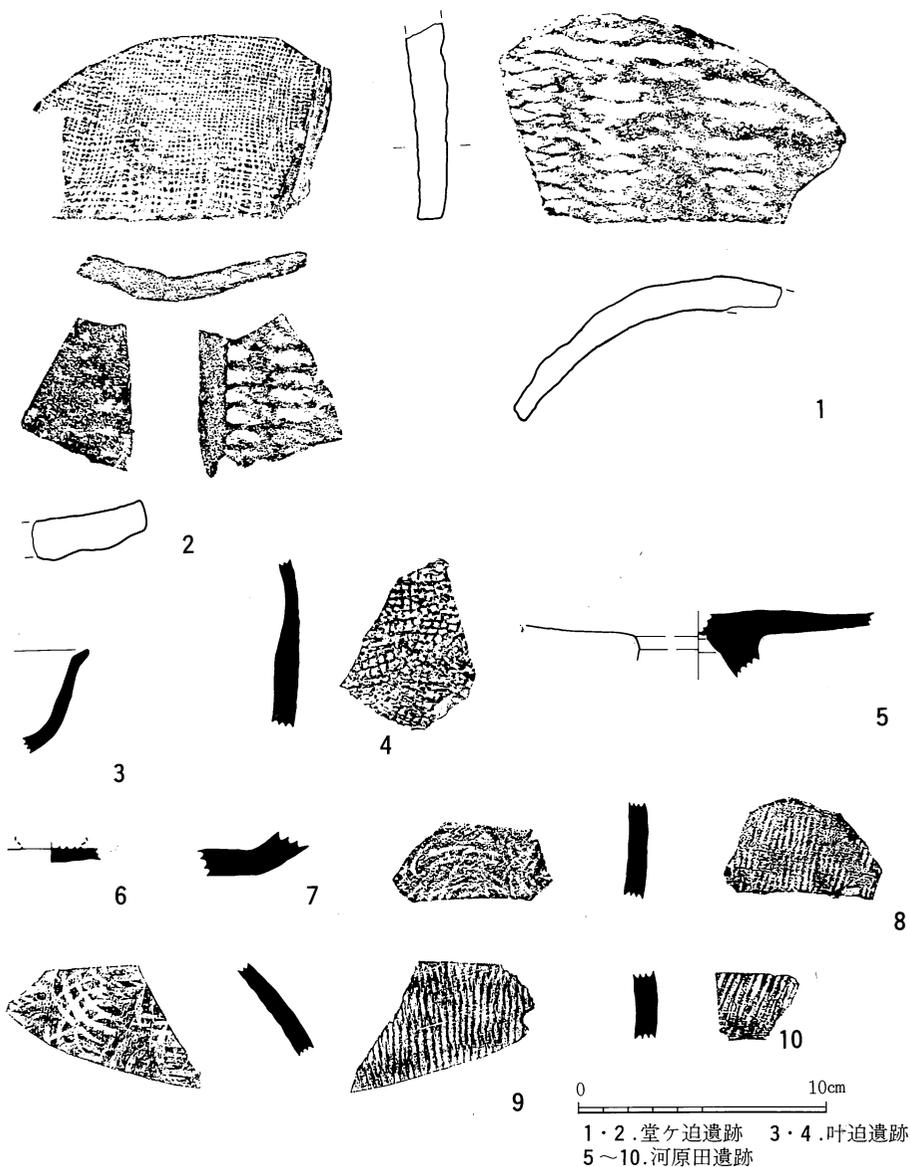
また、丘陵先端部の西側の崖面において掘り込まれた部分が確認でき、奥壁には須恵器が含まれており、側壁は堅く、周辺の土が赤く焼けたような状態になっていた。窯跡の一部になるのではないかとと思われる。

なお、本遺跡は『宮崎県の考古学』⁽⁵⁾で紹介されている「佐土原町東上那珂の瓦窯跡」や『全国遺跡地図一宮崎県一』⁽⁶⁾16～80に示されている今坂遺跡に関連するものと考えられるが今回

瓦は採集されなかった。

3. 小結

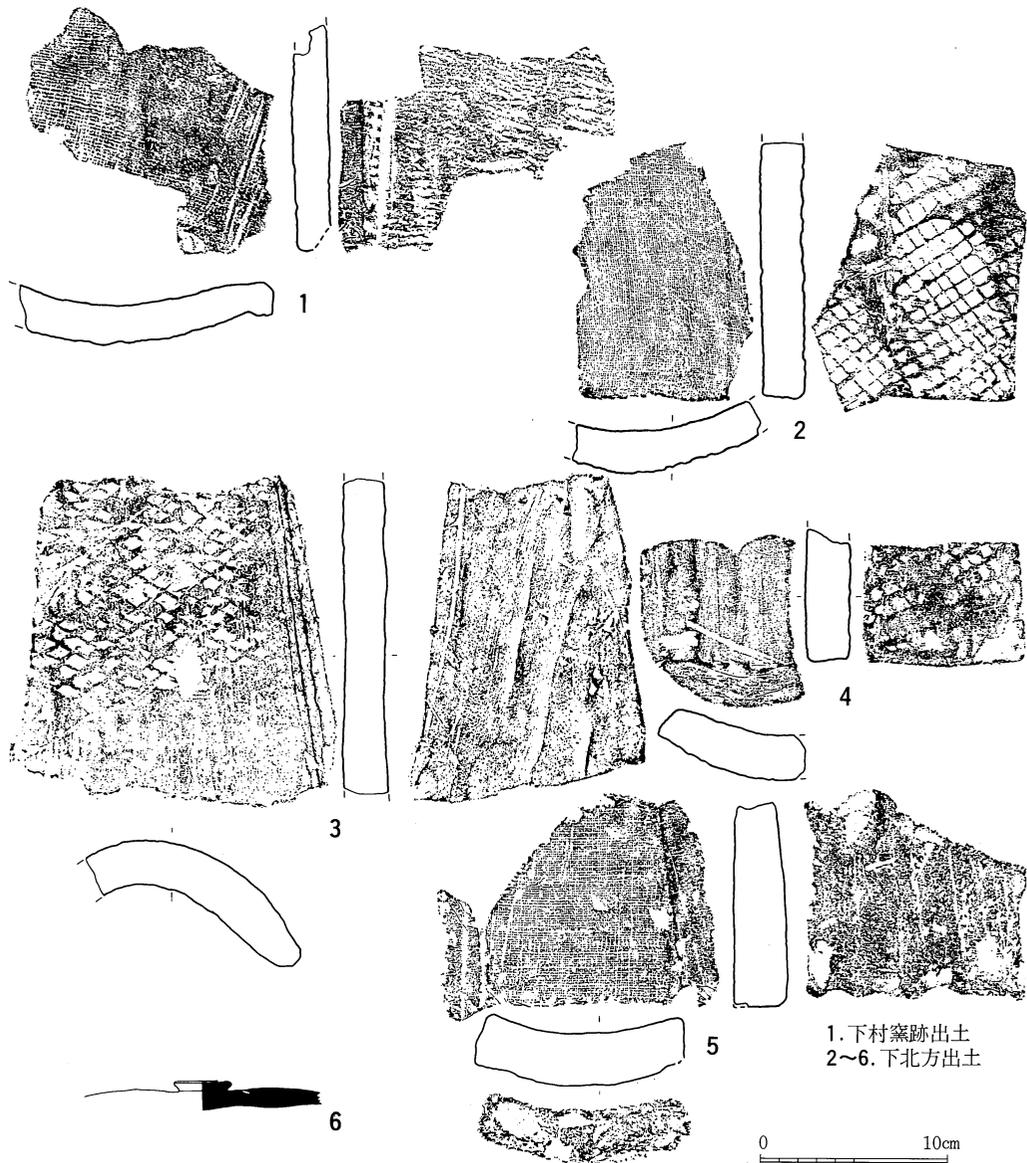
以上のように、今回の分布調査では叶迫・堂ヶ迫・河原田の3地点で窯跡に関連するのではないと思われる遺跡を確認することができた。時期としては遺物が小片のため今後の検討に待ちたいが、下村古窯跡群との関連も考慮され、概ね8～9世紀を中心とした時期が考えられよう。また、下村古窯跡群も含めてこの地域は、従来指摘されていたように瓦・須恵器の一大古窯跡群の存在が考えられ、今後、より詳細な調査が必要であろうと思われる。



第7図 佐土原町内分布調査採集遺物

第3節 宮崎市所在の遺跡

『延喜式』には日向十六駅の一つである「江田駅」が記載されており、現在の住吉江田あたりに式内社の江田神社がある。その西方約5kmに位置する下北方町塚原の景清廟付近の畑で布目瓦が出土している。2～3は凸面が斜格子目叩きの平瓦で、4は凸面が斜格子目叩きの丸瓦である。凹面は2が明瞭な布目痕を残すのに対して、3・4はナデ消している。5は熨斗瓦で凸面をナデ消しており、凹面には明瞭な布目痕を残す。一緒に表採された6の須恵器の坏蓋は扁平な宝珠つまみを有している。当地域では格子目叩きの瓦のみである。



第8図 下村窯跡・下北方出土遺物実測図

第三章 試掘調査の結果

第1節 昭和63年度試掘調査

1. 諏訪遺跡（国分尼寺跡推定地）

当遺跡は平成元年1月26日から2月13日に試掘調査が行われた結果、柱穴が検出され、布目瓦・土師器などが出土した。平瓦は凸面が、横方向の縄目叩きが主であり、格子目叩きはわずか1点である。丸瓦には凹面に横方向の縄目叩きを残すものが出土している。土師器には高台付き椀とヘラ切り底の坏が出土している。しかし、布目瓦の出土層が二次堆積であり、検出された柱穴も国分尼寺関連の掘立柱建物跡とは考えにくい。詳細については既に『国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告Ⅰ』（1989）に報告されている。

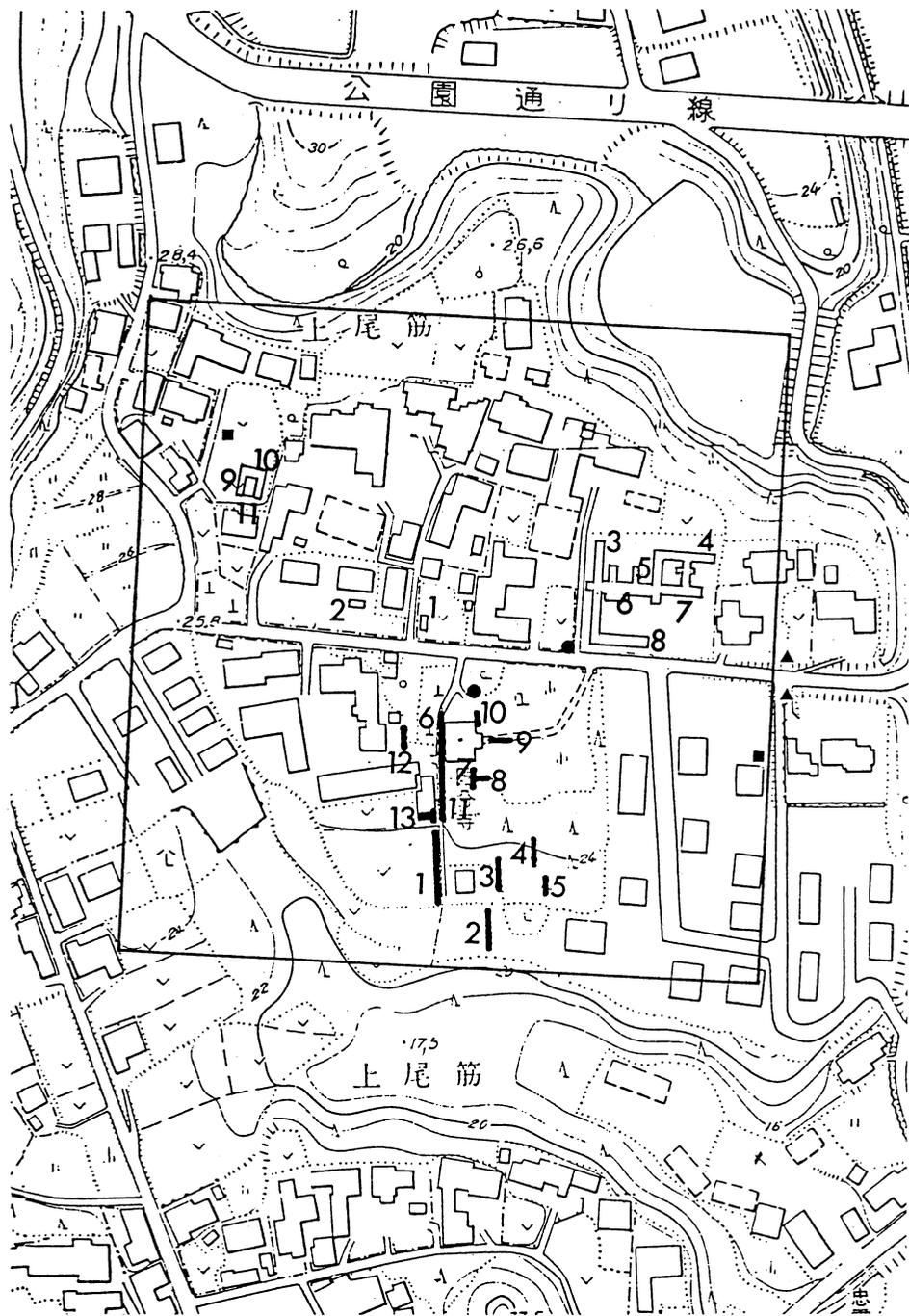
第2節 平成元年度試掘調査

1. 日向国分寺跡

日向国分寺の推定復元寺域内において、11箇所を試掘トレンチを設定し、調査を実施した。推定寺域を南北にわける道路の南側は、昭和36年の発掘調査により13箇所のトレンチが設定されていることから、今回の試掘調査は、道路の北側において調査地を選定した。1・2トレンチは、推定寺域のほぼ中央部に選定したが、耕作物との関係で広い面積を確保することが出来ず、多くの成果は得られなかった。3～8トレンチは、推定寺域内の東半分にもっとも広く残された畑地に設定することが出来、遺構の上で多くの成果を上げることが出来た。9～11トレンチは、推定寺域の西端の、過去の耕作により多量の瓦を出土した畑地に設定し、多くの遺物を検出している。

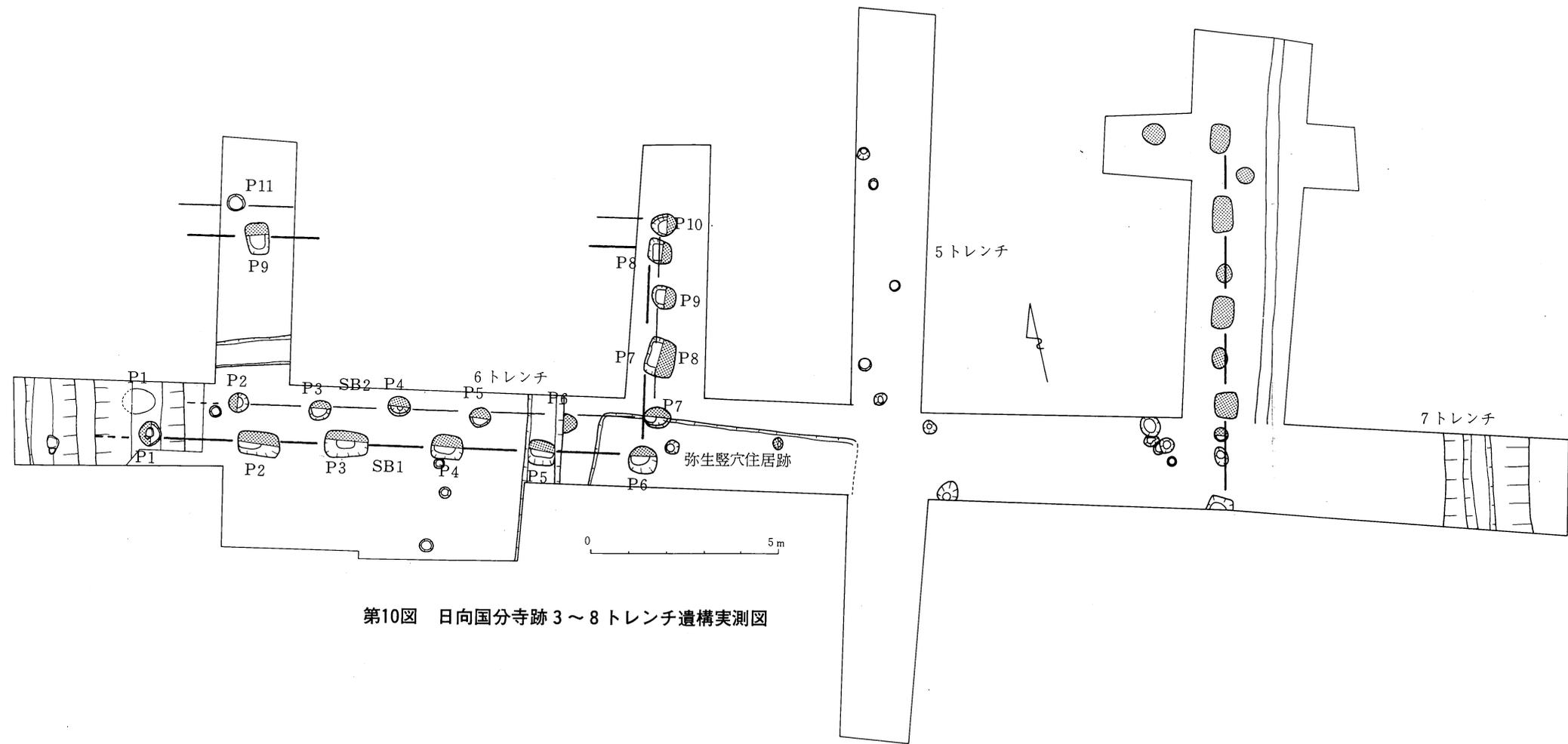
表土層約20cm、黒色土層約50cm、以下アカホヤ層となるが、遺物は黒色土上層から出土し、遺構もこの面から掘り込まれている。

遺構の面で最も注目されたのは、3～8トレンチのうち5～7トレンチにおける掘立柱建物跡の検出である。柱掘形が長軸0.9～1.2m×短軸0.6～0.8mの矩形の大きな柱穴で構成される東西棟の掘立柱建物跡と、北に半間程ずれて、柱掘形が直径0.5～0.8mの円形の柱穴で構成される同じく東西棟の掘立柱建物跡が検出されている。東側の妻部分の柱穴は検出され、建物の東端は確定出来たが、西端は南北溝及び調査区との関係で検出できず、さらに西側に延びる可能性があり、共に少なくとも桁行5間以上、梁行2間の掘立柱建物跡が想定される。また、柱間の規格は、矩形柱掘形の掘立柱建物跡が、桁行1間が約2.5m・梁行1間が約2.8m間隔で、円形柱掘形の掘立柱建物跡が、桁行1間が約2.2m・梁行1間が約1.8m間隔であ

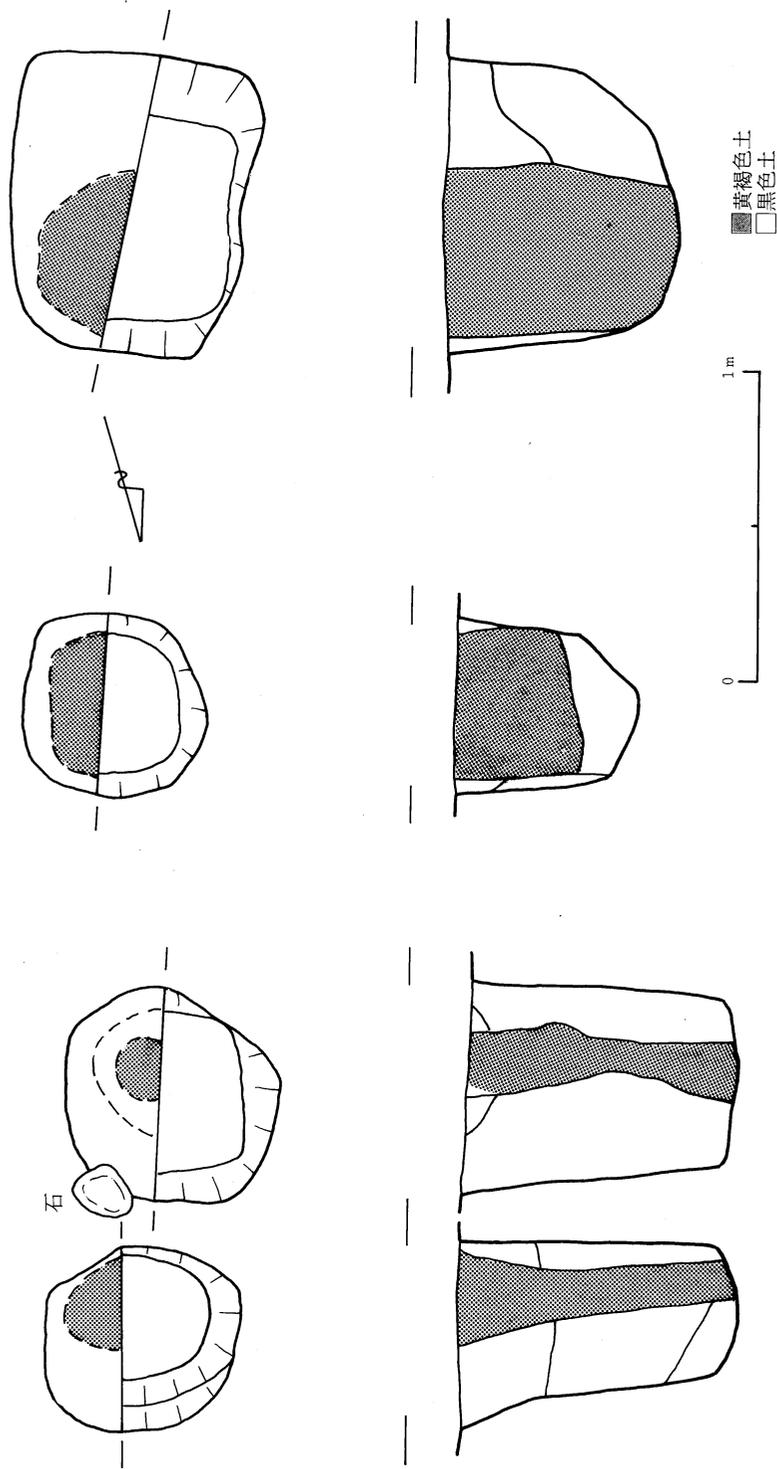


□ 平成元年度 ■ 昭和36年度
 ■ 瓦出土地点 ● 礎石 ▲ 仁王像推定地点

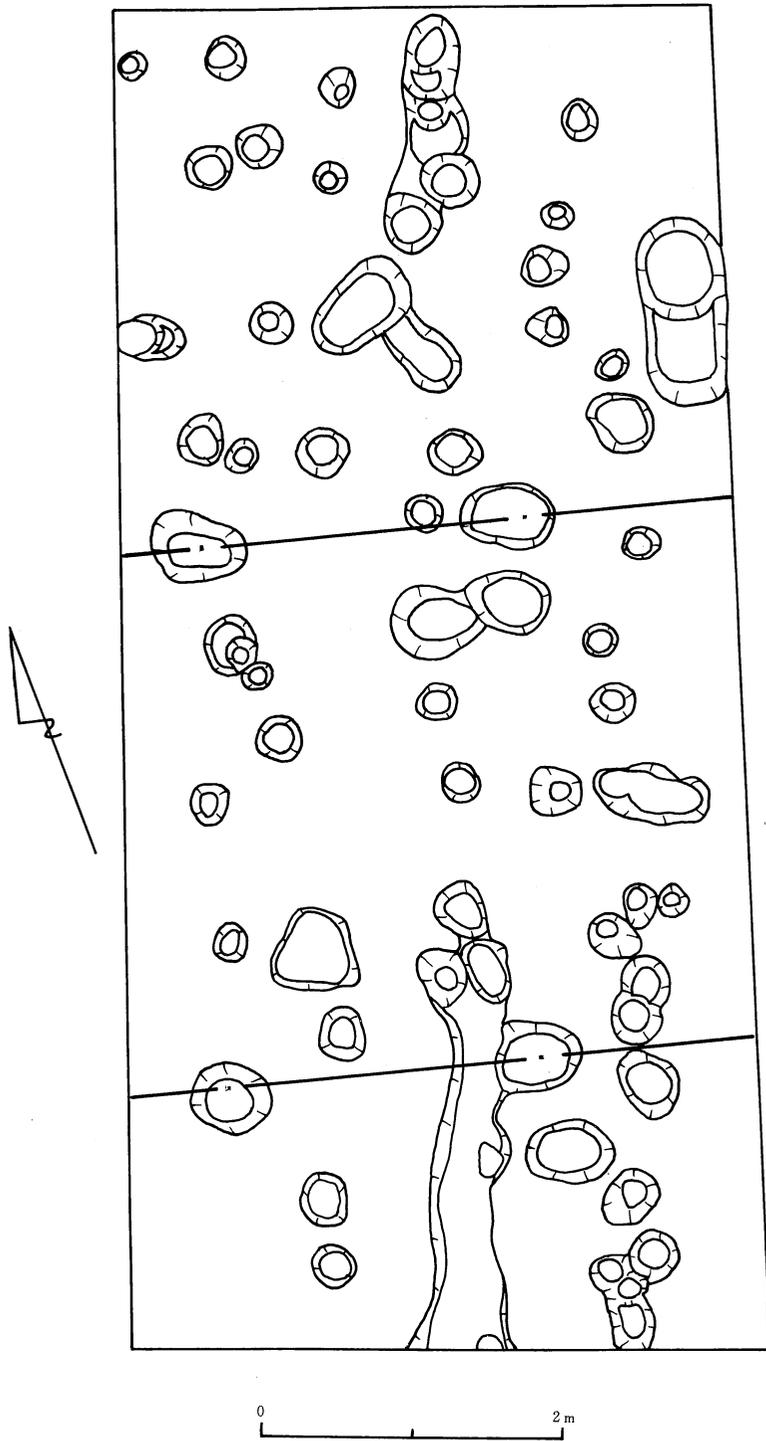
第9図 平成元年度試掘調査トレンチ設定図(日向国分寺)



第10図 日向国分寺跡 3～8トレンチ遺構実測図



第11図 6トレンチ(南北区)柱穴及び土層断面実測図



第12図 日向国分寺跡遺構等実測図

る。

さらに、7トレンチの東端では幅約2.2mの南北に走る溝が検出されており、その西側約5.5mの位置では、南北に並ぶ柱掘形が矩形の柱穴が検出されている。この柱穴は、今回の調査区内では、並列して対応する柱穴が検出されていないことから、掘立柱塀の柱穴との指摘も出来るが、一方では北方向への柱穴の伸びも検出されていないことから、南北棟の掘立柱建物跡の可能性も残されている。

こうした矩形及び円形の比較的規模の大きな柱穴のほとんどは、柱の抜き取り後黄褐色の土を意識的に充填している状況が観察された。

また、6トレンチにおいては、弥生時代の竪穴住居跡も検出されている。

一方、聞き取り調査及び採集遺物の確認により瓦溜りとも考えられる多量の瓦を出土したとされる畑地と隣接した畑地に設定した9～11トレンチにおいては、土師質土器の出土をみたものの、設定したトレンチ内において瓦溜りといえる状況は検出されなかった。

遺構については、3～8トレンチに比べ密集した状態で柱穴が検出されているが、柱穴の大きさとしては小さなもので、その推定寺域内における位置から幾度かの立て替えを必要とするような小規模な掘立柱建物が想定される。ただし、東西棟の一部と見られるやや大きめの柱穴は、3～8トレンチにおける円形柱穴の建物と同じく桁行1間が2.2m、梁行1間が1.8m、統一された規格の時期の所産と考えられる。

遺物

(1) 瓦

1) 軒丸瓦 (第13図1～3)

1は単弁葉蓮華文の軒丸瓦で、外区外縁から中房の破片である。外区外縁には鋸歯文はなく、外区内縁には珠文を施し、蓮弁と蓮子は各1個遺存している。2は外区内縁から内区の破片であるが、外区内縁が剥落しており、蓮弁が1葉遺存している。3は内区の破片であり、蓮弁と珠文が各1個遺存している。1・2の焼成が堅緻であるのに対して、3は軟である。

2) 平瓦 (第13図4～第17図47)

当遺跡出土の平瓦は凸面の叩きと凹面の調整によって次のように分けることができる。

第I類 格子目叩き

a 正格子目叩き (第13図4～6)

正格子の一辺長が10mm×8mm、7mm×6mm、6mm×5mmの3種類が計測されるが、同一叩き板による叩き目でも、叩きの強度や方向、焼成の程度によって異なる計測値が得られる可能

性もあるが、すべて10mm以下の正格子である。凹面には布目痕を残す。

b 斜格子目叩き (第13図7～9)

斜格子の一辺長が5mm×5mmの規格のものだけである。凹面には布目痕を残す。

c 長方形格子目叩き (第13図10)

長方形の一辺長が13mm×7mmの規格のものだけである。凹面には布目痕を残す。

第Ⅱ類 縄目叩き

縄目叩きは5cmあたりの縄目の条数を計測し、13条以下を粗縄目、14条以上を精縄目とする。縄目の叩きの方向には横方向と縦方向がある。

a 横精縄目叩き (第13図11)

凹面の調整によって布目の1類がある。11は側面の凸面側には横方向の縄目叩きを残す段を有し、凹面側を面取りを行っている。

b 横粗縄目叩き (第13図12～13、第14図14～23)

凹面は布目の1類(12～18)、粗縄目叩きとナデの2類(23・24)、ナデの3類(19～22)に分かれる。1類には側面の断面によって12～14のように凸面側に段を有し、凹面側を面取りしたもの、16・15のように両面とも面取りしたもの、17・18のように凹面側のみを面取りしたものなどがある。2類は粗縄目の叩きの上から縦方向にナデを施しており、3類には側面の凸面側のみを面取りするものと、しないものがある。

c 縦精縄目叩き (第15図26～28)

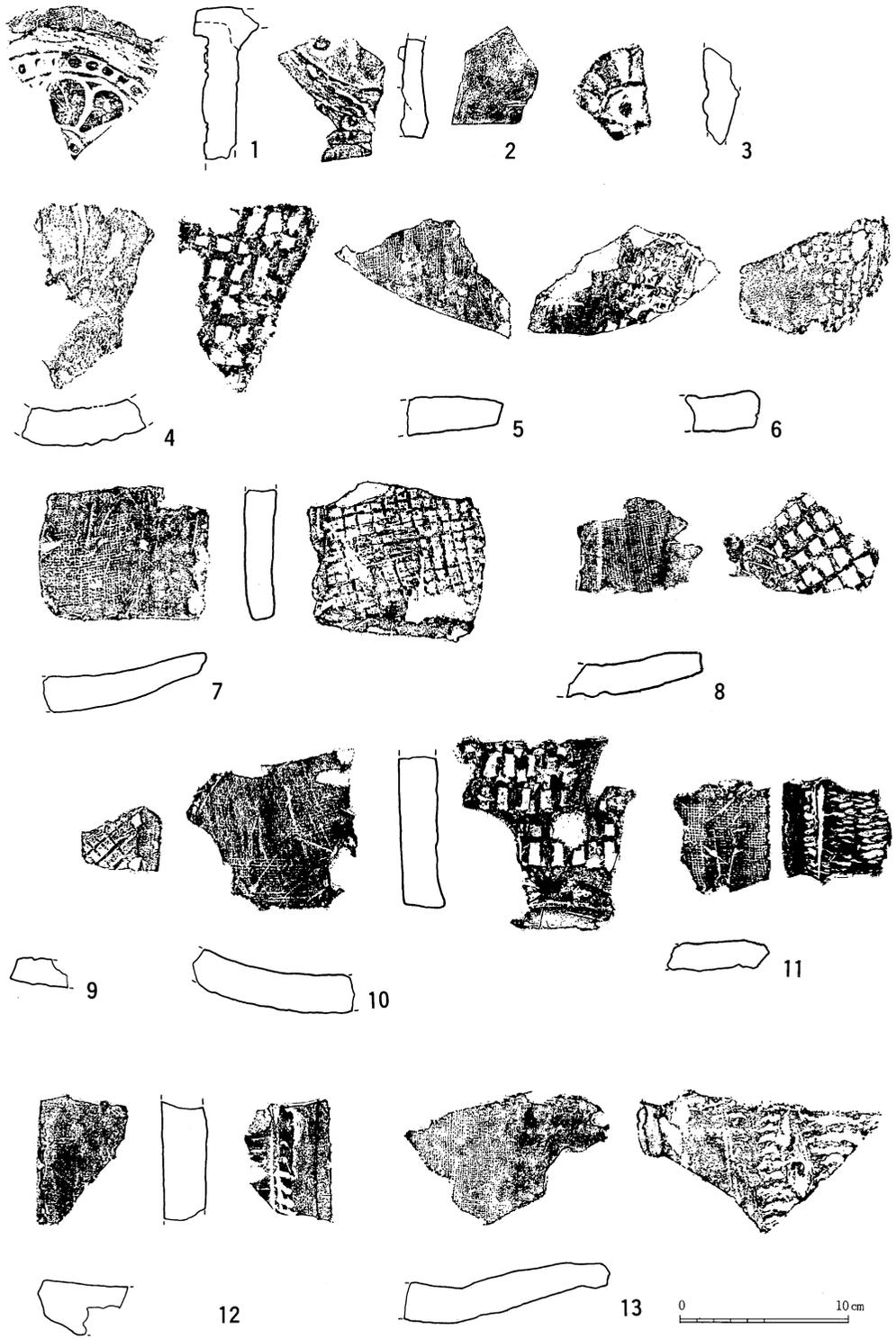
凹面は布目の1類がある。28のように側面の凹面側は面取りしている。26は端面の凸面側を指押さえ、凹面側を叩き板によるナデを施している。27は焼成が軟であるのに対して26・28は堅緻である。

d 縦粗縄目叩き (第15図29～31、第16図32～37)

凹面は布目の1類がある。29・31・35は側面は面取りを全然行っていない。32と33の端面は面取りを行っている。34の端面は未調整であり、凸面は布目の上からナデを施している。30は端面の凹面側を面取りしているが、側面の凹面側の面取りされる面まで布目が残っている。33の凹面は叩き板によるナデを施している。35は凹面が横縄目叩きの上から縦方向のナデを施しており、凹面には桶巻作りの痕跡を残している。30と34は焼成は堅緻であるが、その他は軟である。

36は凸面の縦粗縄目の叩きの上からきれいにナデているが、凹面には縦方向縄目を残している。側面は凸面側に縄目痕を残す段を有し、凹面側の面取りを行っている。

37は隅切瓦で、凸面には縦方向の縄目を、凹面にはナデを施している。



第13图 国分寺跡出土瓦実測図(I)

第Ⅲ類 平行叩き (第16図38)

38は凸面には粗い平行叩きを施し、凹面には布目を残している。

第Ⅳ類 叩きの跡をきれいにナデ消す (第16図39～42、第17図43～45)

a 叩き板によるナデ (第16図39・40)

39は凸面には叩き板によるナデを斜方向に、凹面には布目の上から叩き板によるナデを施している。側面は凹面側のみ面に面取りを施している。凸面には離れ砂を使用している。40は両面とも叩き板によるナデを施しており、側面部付近には両面とも指押えの跡が明瞭に残る。

b ナデ (第16図41・42、第17図43～47)

凸面は叩きの上からきれいにナデ消し、凹面には布目の上から叩き板によるナデを施している。41は凸面は格子目叩きの上からきれいにナデ消しており、凹面は布目の上から部分的に縦方向にナデている。側面は凸面側が短い段を有し、凹面側に面取りを施している。42は凸面はきれいにナデ消しており、凹面は布目の上から叩き板によるナデを斜方向に施している。側面の凹面側の面取りが42がわずかであるのに対して43は幅広い。

凸面は叩きをきれいにナデ消し、凹面には44のように横縄目叩きを残すものと、45のように縦縄目叩きを残すものがある。45の側面は凸面側にわずかに段を有し、凹面側に面取りを施している。

47は両面ともきれいに叩きをナデ消している。

3) 丸瓦 (第17図49～54、第18図55～62)

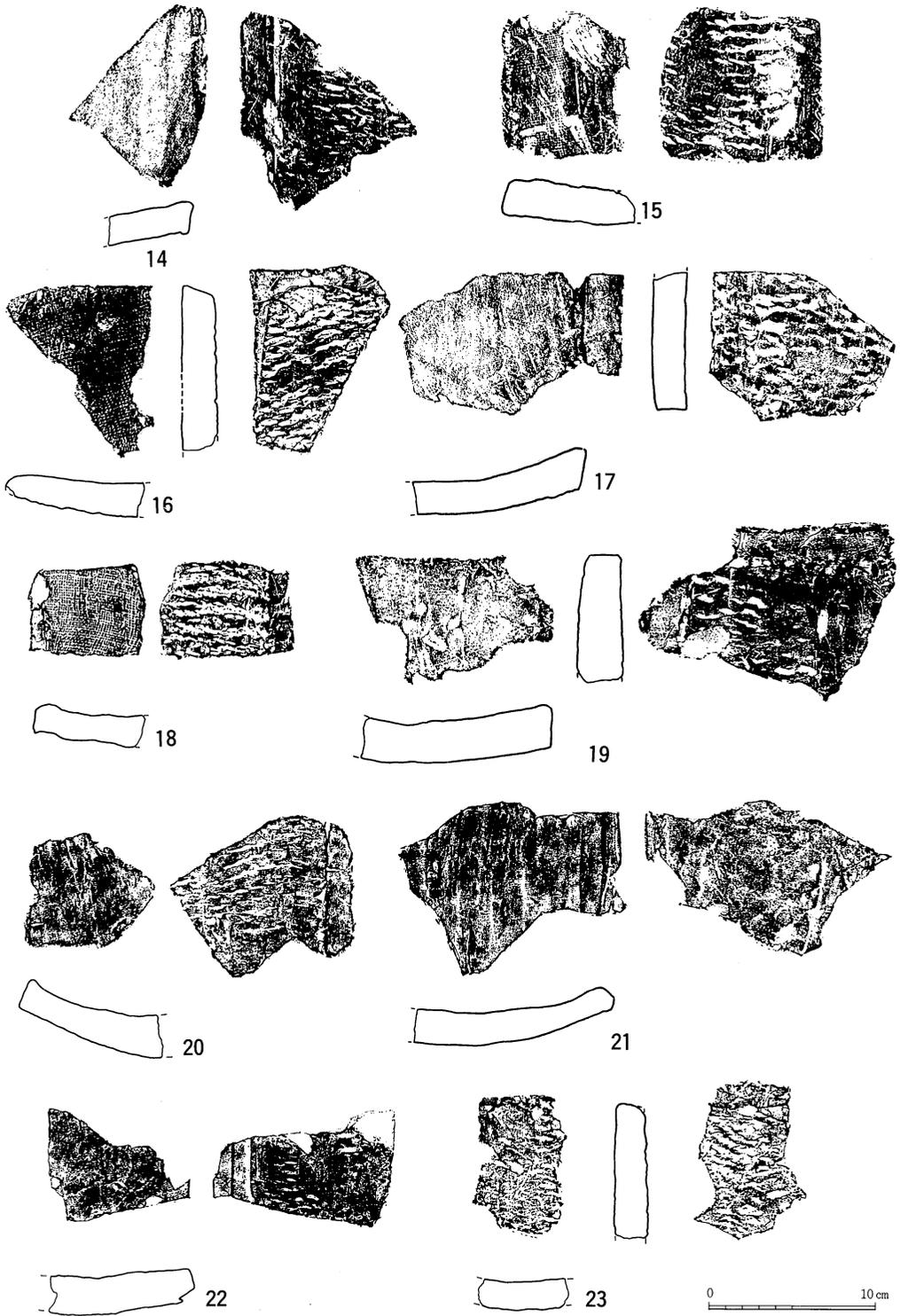
丸瓦は1点の行基式を除くとすべて玉縁式のもので、凸面の叩きによって格子目・縄目を残すものと、叩きの跡をきれいにナデ消すものに分かれる。

a 格子目叩き (第17図48・49)

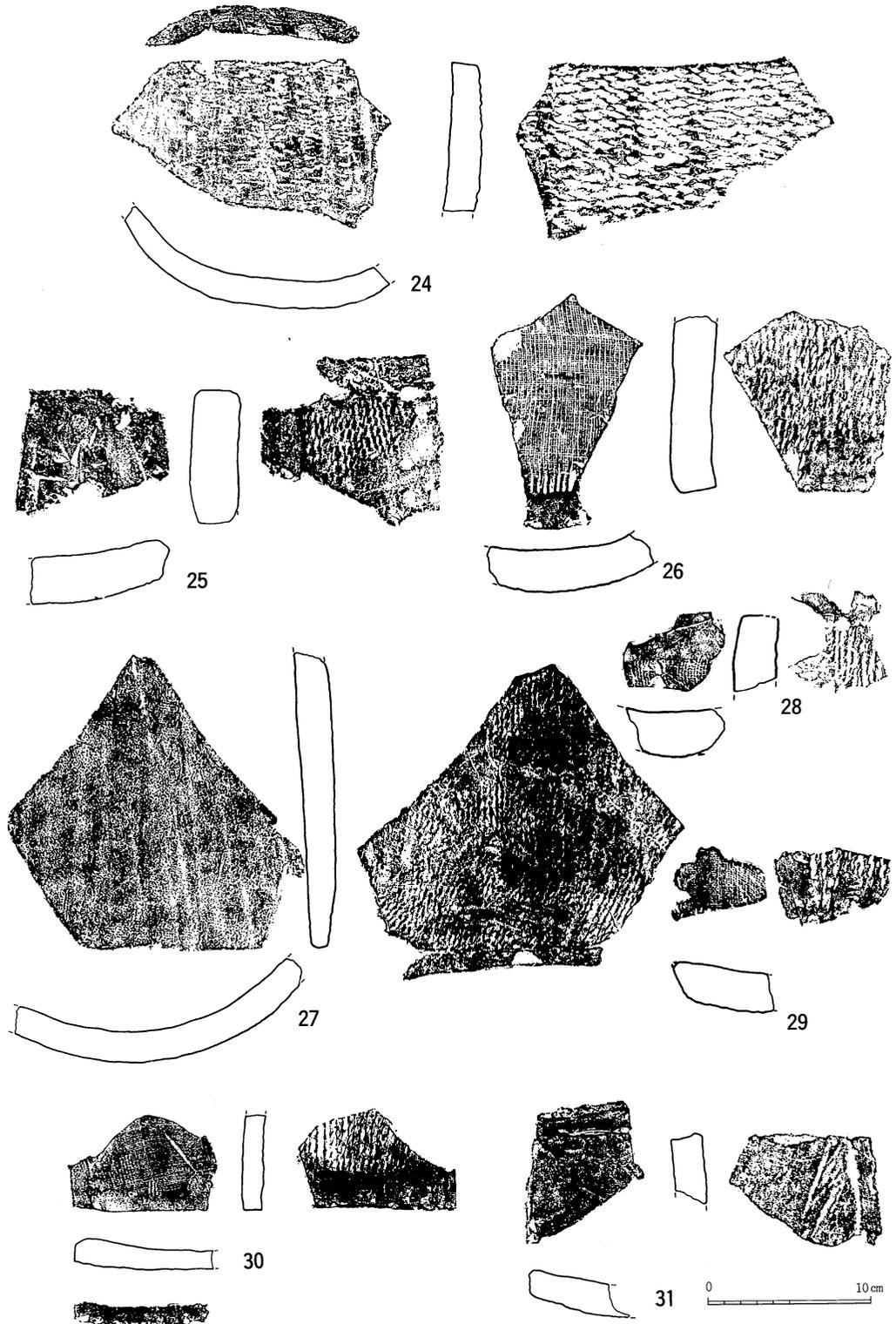
49のように一辺長7mm×6mmの正格子目叩きのもものと48のように5mm×5mmの斜格子目叩きのもものがある。48の凹面には明瞭な布目を残している。

b 縄目叩き (第17図50～54)

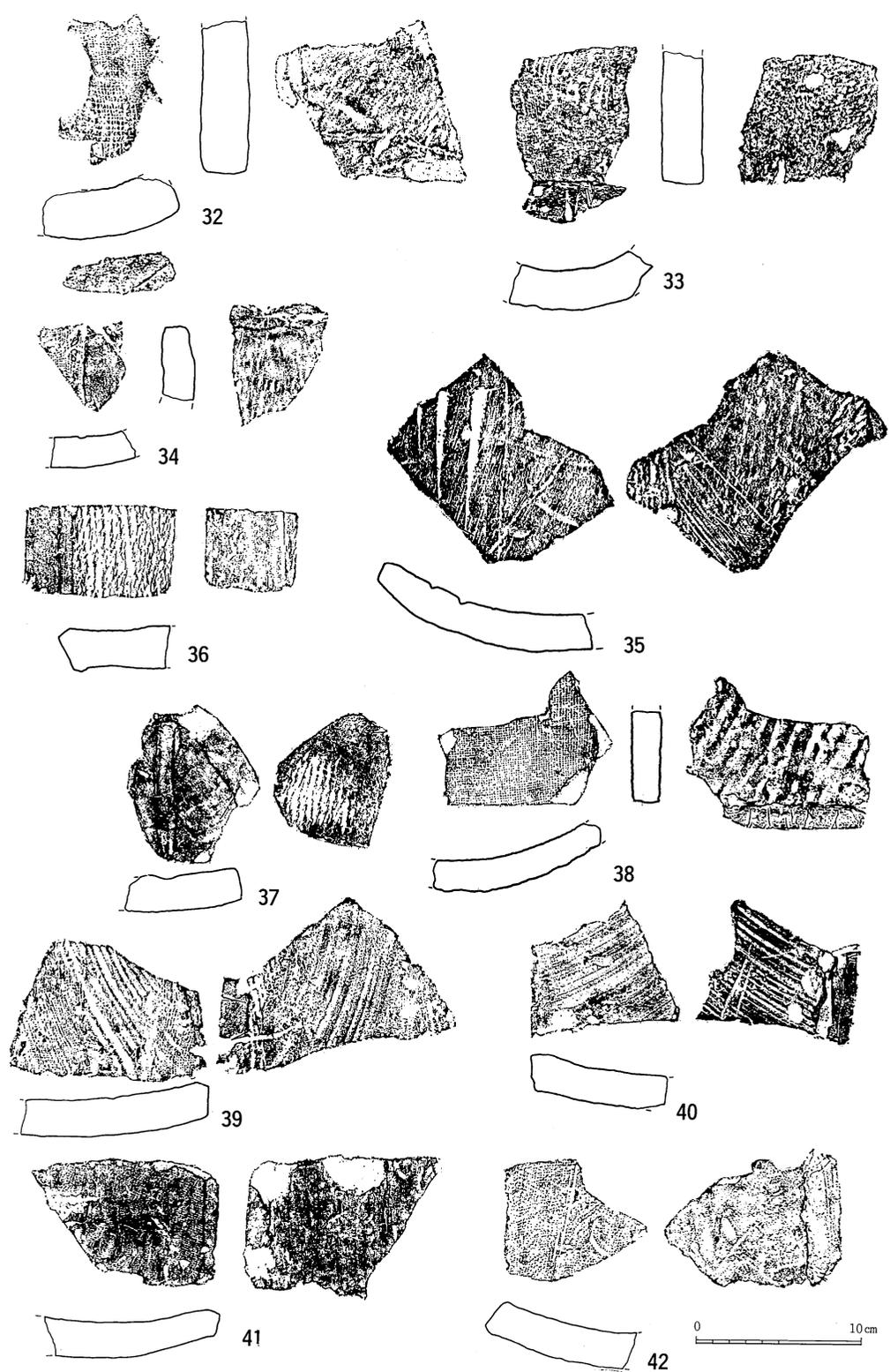
凸面の縄目叩きには50のように斜方向のもものと51～53のように横方向のもものがある。凸面が横方向の縄目叩きのももの凹面は51～53のように横方向の縄目叩きであるが、54のみが布目を残している。端面・側面とも全然面取りを施していない。50は長さ4cmの短い玉縁部を有し、玉縁部の凸面はきれいにナデているが、凹面は叩き板による縦方向のナデを施している。筒部の凹面はきれいにナデ消しており、わずかに布目を残している。また筒部凸面にはヘラによる×印を入れている。



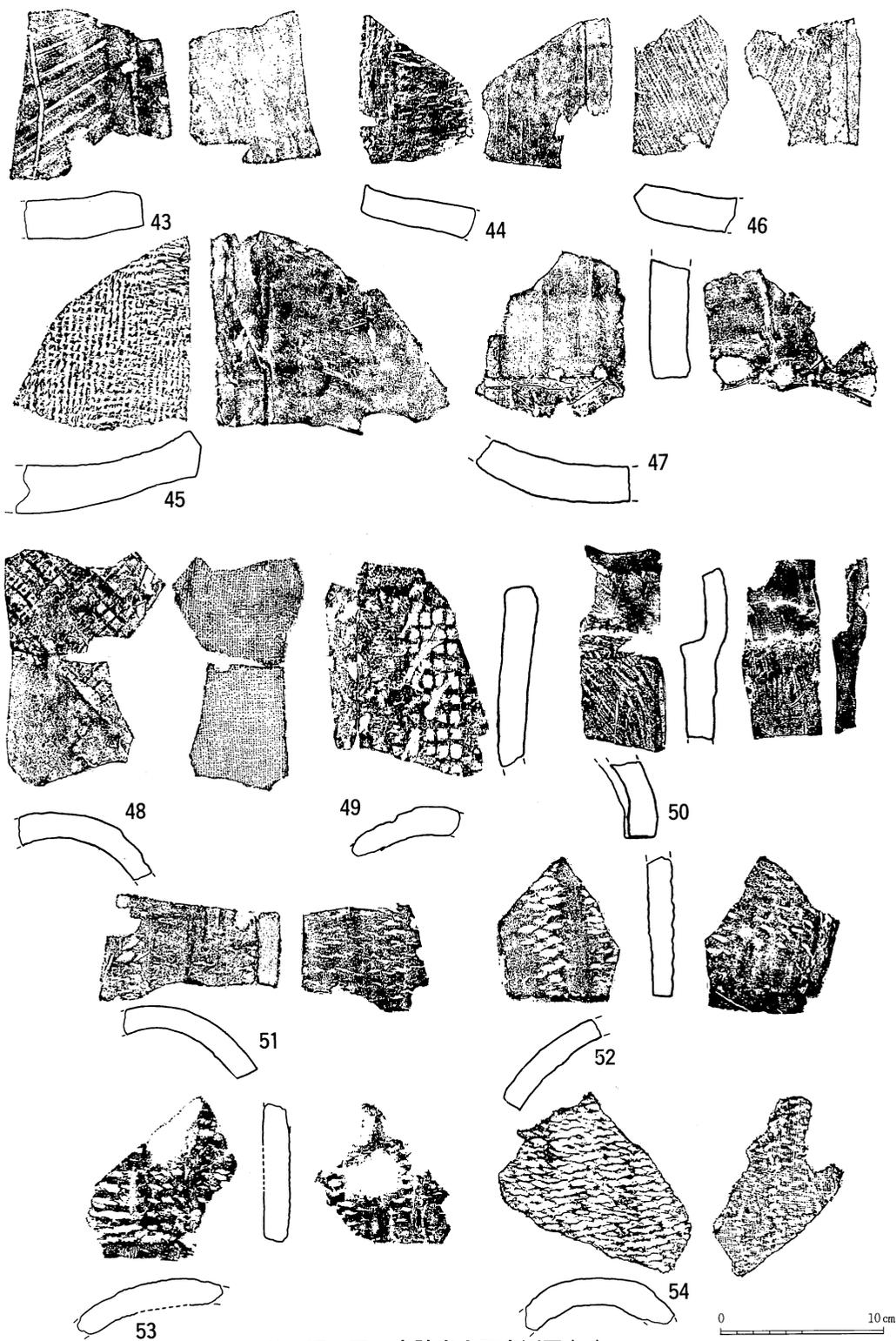
第14图 国分寺跡出土瓦実測図(Ⅱ)



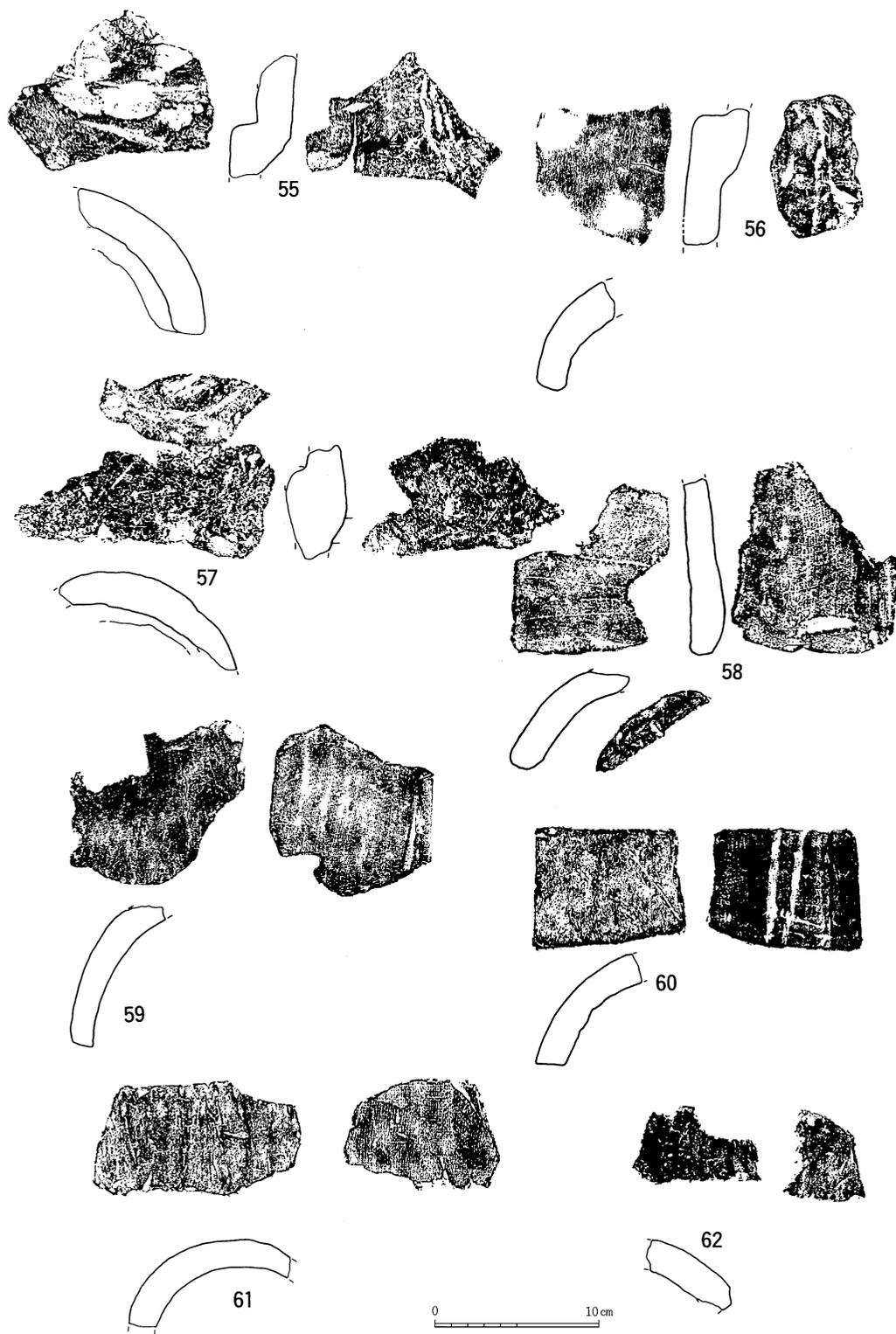
第15图 国分寺跡出土瓦実測图(Ⅲ)



第16図 国分寺跡出土瓦実測図(Ⅳ)



第17图 国分寺跡出土瓦実測図(V)



第18图 国分寺跡出土瓦実測図(VI)

表1-1(1) 国分寺跡瓦観察表

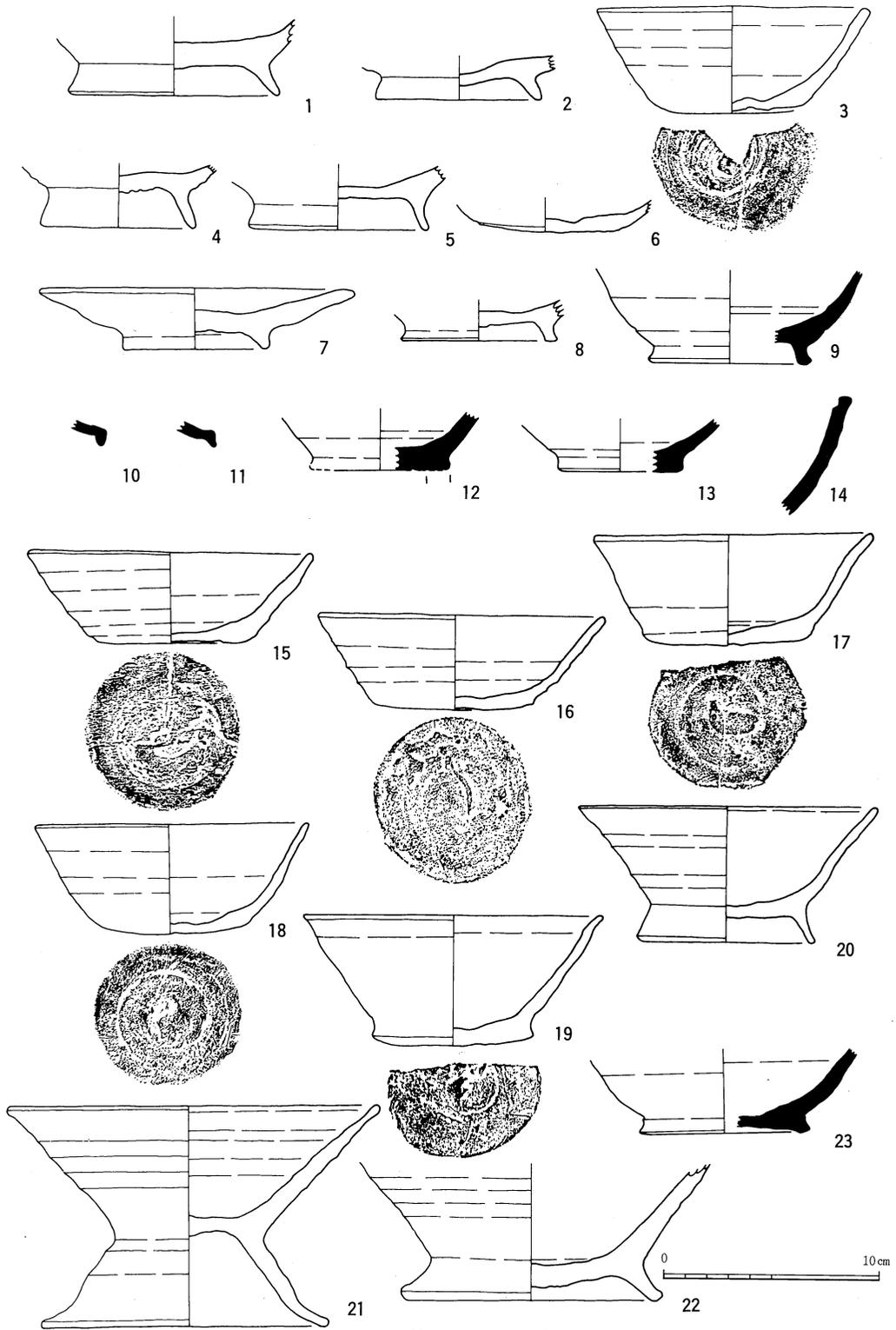
遺物番号	出土区	種類	凸面調整	縄目条数	凹面調整	布目の経緯数	側面調整	端面調整	胎土	焼成	色		備考
											凸面	凹面	
1	7 T	軒丸瓦	ナデ		叩き板によるナデ、ナデ		ナデ		1mm以下の砂粒を少量含む	良	灰オリーブ(5 Y%)	灰オリーブ(5 Y%)	珠文数8個
2	8 T	〃	ナデ		ナデ		ナデ		0.5~1mmの砂粒を少量と口径1mmの高脚小僧を含む	良	灰黄(2.5 Y%)	灰黄(2.5 Y%)	
3	3 T	〃	ナデ		ナデ		ナデ		0.5~1mmの砂粒と、粒状の褐鉄鉱を含む	やや軟	にぶい橙(5 Y R%)	灰白(2.5 Y%)	
4	6 T	平瓦	正格子目叩きの後、縦方向のナデ	10×7mm	布目痕の上に縦方向のナデ	21×27	凹面に面取り		0.5~2mmの砂粒を少量含む	やや軟	灰(N%)	灰(N%)	
5	8 T	〃	正格子目叩き、ナデ	8×8mm	布目痕の上に一部ナデ、		凹面に面取り		1~2mmの砂粒を少量含む	良	淡黄(5 Y%)	灰(5 Y%)	
6	3 T	〃	正格子目叩きの後、ナデ	5×4mm	縦方向のナデ		凹面に面取り		粒状~塊状の褐鉄鉱を含む(口径0.2長さ0.5)	やや軟	にぶい黄橙(10 Y R%)	にぶい黄橙(10 Y R%)	
7	7 T SE5	〃	斜格子目叩きの後、一部斜め方向のナデ	6×5mm	布目痕の上に縦方向のナデ		凹面に面取り	凹面に面取り	2mm以下の砂粒を少量含む	やや軟	にぶい橙(5 Y R%)	にぶい橙(5 Y R%)	
8	7 T	〃	斜格子目叩き、ナデ	8×5mm	布目痕の上にナデ		凹面に面取り		1mm前後の黒色砂粒を多く含む	良	灰(5 Y%)	灰(5 Y%)	凹面に模骨痕
9	5 T	〃	斜格子目叩きの後、ナデ	6×4mm	叩き板によるナデ		凹面に面取り		1~2mmの砂粒を少量含む	やや軟	灰色(10 Y R%)	灰色(2.5 Y%)	
10	8 T	〃	長方形子目叩きの後、ナデ	13×7mm	布目痕の上に一部ナデ、叩き板によるナデ、指押え				0.5~1mmの砂粒を少量含む	やや軟	灰(10 Y%)	灰(N%)	端面に布目痕
11	3 T	〃	横方向の縄目叩きの後、一部ナデ、叩き板による押え	14本	布目痕の上に一部ナデ、指押え、叩き板によるナデ	18×18	凹面に面取り		細砂粒を多く含む	良	灰(N%)	灰(N%)	
12	6 T SH38	〃	横・斜め方向の縄目叩き	8本	布目痕の上に丁寧なナデ		凹面に面取り		0.5~1mmの砂粒を少量含む	良	灰黄(2.5 Y%)	灰黄(2.5 Y%)	
13	8 T	〃	横方向の縄目叩き、一部縦方向のナデ	9本	布目痕の上に丁寧なナデ	24×29	凹面に面取り		1~2mmの砂粒を少量含む	良	灰白(5 Y%)	灰(5 Y%)	
14	6 T E	〃	横方向の縄目叩きの後、ナデ	10本	布目痕の上に縦方向のナデ	12×12			4mm以下の砂粒を少量含む	やや軟	灰白(2.5 Y%)	灰白(2.5 Y%)	
15	7 T SE7	〃	横方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ	7本	布目痕の上に粗い割り指ナデ	18×18			0.5~1mmの砂粒、口径3mmの高脚小僧を含む	やや軟	灰オリーブ(5 Y%)	灰(5 Y%)	
16	6 T SE	〃	斜め方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ	7本	布目痕の上に縦方向のナデ	18×18			1mm前後の砂粒を極く少量含む	良	灰(7.5 Y%)	灰(7.5 Y%)	
17	8 T	〃	横方向の縄目叩きの後、ナデ	7本	布目痕の上に斜め方向のナデ	27×30	凹面に面取り		1~2mmの砂粒を少量、口径1~2mmの高脚小僧を含む	良	灰(5 Y%)	灰オリーブ(5 Y%)	
18	6 T	〃	横方向の縄目叩き	6本	布目痕	19×19	凹面に面取り		2mm以下の砂粒を少量含む	やや軟	灰黄(2.5 Y%)	灰白(2.5 Y%)	
19	6 T	〃	横方向の縄目叩きの後、ナデ	8本	ナデ				0.5~1mmの砂粒を少量含む	やや軟	灰黄(2.5 Y%)	灰黄(2.5 Y%)	
20	6 T	〃	横方向の縄目叩き	6本	縦方向のナデ				1mm以下の砂粒を少量含む	やや軟	灰(N%)	灰白(5 Y%)	
21	6 T	〃	丁寧なナデ、一部縄目叩き	7本	布目痕の上に縦方向の丁寧なナデ		凸面に面取り		0.5~1mmの砂粒を少量含む	良	灰黄(2.5 Y%)	灰黄(2.5 Y%)	側面に自然種

表1-(2)

遺物 番号	出土区	種類	凸面調整	縄目条数	凹面調整	布目の 経緯数	側面調整	端面調整	胎	焼成	色面		調面	備考
											凸面	凹面		
22	6 T	平瓦	横方向の縄目叩きの後、縦方向の粗いナデ	10本	縦方向のナデ、一部布目痕		凸面に面取り		2mm以下の砂粒を少量含む	良	灰(7.5Y%)	黄灰(2.5Y%)	側面・凸面に自然釉	
23	3 T	〃	横・斜め方向の縄目叩きの後、一部縦方向のナデ	8本	横方向の縄目叩きの後、縦方向のナデ				0.5~1mmの砂粒を少量含む	良	灰(5Y%)	灰(5Y%)		
24	8 T	〃	斜め方向の縄目叩き	9本	横方向の縄目叩きの後、一部縦方向のナデ				1mm前後の砂粒を少量含む。灰色と浅黄色の胎土がマーブル状になっている	良	灰オリーブ(7.5Y%)	灰(7.5Y%)		
25	6 T	〃	縦方向の縄目叩き	13本	布目痕の上に縦方向のナデ		凹面に面取り		1mm以下の砂粒を少量含む	やや軟	淡黄(2.5Y%)	淡黄(2.5Y%)	凸面に離れ砂	
26	8 T	〃	縦方向の縄目叩きの後、指ナデ	12本	布目痕、叩き板による縦方向のナデ	20×26			1mm以下の砂粒を少量含む、口径3mm長さ4mmの高脚小甕を含む	やや軟	黄灰(2.5Y%)	黄灰(2.5Y%)		
27	6 T	〃	縦・斜め方向の縄目叩きの後、ナデ	16本	布目痕の上に縦方向のナデ				微細粒~2mmの砂粒を多量に含む	良	淡黄(2.5Y%) 黄褐(2.5Y%)	灰白(2.5Y%)		
28	5 T	〃	横方向の縄目叩き	12本	布目痕		凹面に面取り		きめ細かい、微細粒を極く少量含む	良	灰白(2.5Y%)	灰白(2.5Y%)		
29	5 T	〃	縦方向の縄目叩き、一部布目痕	8本	布目痕、丁寧なナデ	21×27			細砂粒を少量含む	やや軟	淡黄(2.5Y%)	淡黄(2.5Y%)		
30	6 T	〃	縦方向の縄目叩き、一部丁寧なナデ	13本	布目痕の上に一部ナデ	30×33	凹面に面取り		1~2mmの砂粒を少量含む	良	灰(N%)	灰(N%)		
31	7 T	〃	斜め方向の縄目叩き	13本	布目痕の上に斜め方向のナデ				1mm以下の砂粒を少量含む	やや軟	灰白(2.5Y%)	灰白(2.5Y%)	凸面に離れ砂	
32	8 T	〃	斜め方向の縄目叩き	12本	布目痕	14×10			2mm以下の砂粒を多量含む	やや軟	浅黄橙(10YR%)	浅黄橙(10YR%)		
33	6 T	〃	縦方向の縄目叩きの後、ナデ	10本	布目痕の上にナデ、一部叩き板による斜め方向のナデ				1~2mmの砂粒を含む。口径~高脚小甕を含む	良	灰白(10YR%)	浅黄橙(10YR%)		
34	5 T	〃	縦方向の縄目叩き、指押え	13本	布目痕、縦方向のナデ	18×24			0.5~1mmの細粒を含む	良	灰(7.5Y%)	灰白(2.5Y%)		
35	5 T	〃	斜め方向の縄目叩きの後、一部縦方向にハケメ	9本	布目痕	18×18			赤色と白色の胎土がマーブル状になっている	やや軟	浅黄橙(10YR%)	灰白(10YR%)	凸面に緑灰や黄褐色の斑	
36	5 T	〃	縦方向の縄目叩き	14本	縄目痕の後、ナデ		凹面に面取り		0.5~1.5mmの砂粒、粒状の褐鉄鉱を少量含む	良	灰(5Y%)	灰(5Y%)		
37	8 T	〃	斜め方向の縄目叩きの後、ナデ	12本	斜め方向の指ナデ、丁寧なナデ				1mm前後の砂粒を少量含む。9mm×11mmの高脚小甕を含む	やや軟	黄灰(2.5Y%)	灰白(2.5Y%)		
38	7 T	〃	斜め方向の互存叩きの後、斜め方向のナデ	4本	布目痕	21×23			0.5~2mmの砂粒を少量含む。粒状~塊状の褐鉄鉱、口径3mmの高脚小甕を含む	良	明黄褐(10YR%) 黄灰(2.5Y%)	黄灰(2.5Y%)	凸面に胎土が赤色や砂分を含んでいる	
39	6 T SE2	〃	叩き板による斜め方向のナデ		布目痕の上に叩き板による斜め方向のナデ				0.5~1mmの砂粒を少量含む	良	灰(7.5Y%)	黄灰(2.5Y%)	凸面に離れ砂	
40	6 T	〃	叩き板による斜め方向の縄目指痕		叩き板による斜め方向の粗いハケメ、一部指押え				1.5mm以下の砂粒を少量含む	やや軟	黄灰(2.5Y%)	黄灰(2.5Y%)		
41	8 T	〃	ナデ		布目痕の上に縦方向の丁寧なナデ		凹面に面取り		粒状~塊状の褐鉄鉱、口径0.5~1mmの高脚小甕を含む	やや軟	浅黄(2.5Y%)	浅黄(2.5Y%)		
42	8 T	〃	ナデ、一部叩き板による横方向ナデ、縦方向の指ナデ		布目痕の上にナデ、一部叩き板による斜め方向のナデ		凹面に面取り		0.5mm前後の砂粒を少量含む	良	黄灰(2.5Y%)	黄灰(2.5Y%)	側面に自然釉 凸面に離れ砂	

表1-(3)

遺物 番号	出土区	種類	凸面調整	縄目条数	凹面調整	布目の 経緯数	側面調整	端面調整	胎	土	焼成	色		備考
												凸面	凹面	
43	6 T	平瓦	縦方向のナデ		斜め方向の叩き板に よるナデ		凹面に面取り		粒状~塊状の褐鉄鉱を含む	やや軟	灰白(5 Y%)	灰白(5 Y%)		
44	8 T	〃	縦方向のナデ		横方向の縄目叩きの後、縦 ・斜め方向のナデ				1mm前後の砂粒を少量含む、 粒状の褐鉄鉱を含む	良	灰(5 Y%)	灰(5 Y%)		
45	7 T SE5-A	〃	縄目叩きの後、ナデ		縄目叩き		凸面に面取り		1~6mmの砂粒を少量含む、灰色 と灰白の粘土がマーブル状になっ ている	やや軟	灰(10 Y%) 灰(10 Y%)	黒(2.5GY%)	凸面に離れ砂	
46	7 T	〃	斜め方向のハケメ、 器面が粗い		斜め方向のハケメ		凹面に面取り		2mm以下の砂粒を多量含む	堅	黄灰(2.5Y%)	黄灰(2.5Y%)	側面に凸面に 自然釉	
47	8 T	〃	斜め方向のナデ、一部叩き 板による斜め方向のナデ		縦方向の丁寧なナデ				1mm前後の砂粒、粒状~塊状の褐 鉄鉱、口径3mm・長さ5.5mmの高 部小瘤を含む	良	黄灰(2.5Y%)	黄灰(2.5Y%)		
48	6 T	丸瓦	斜め方向のナデ	5×5mm	布目痕	20×22			0.5~2mmの砂粒を少量含む、断面 0.5~2mmの砂粒のサンドイッチ状 になっている	良	灰(5 Y%)	灰(5 Y%)		
49	6 T 西SE	〃	正格子目叩きの後、 斜め方向のナデ	7×6mm	一部ナデ				0.5~3mmの砂粒を少量含む	やや軟	橙(7.5YR%)	橙(7.5YR%)		
50	6 T	〃	斜め方向の縄目叩き	5本	斜め方向の叩き 板による縦方向のナデ				1~2mmの砂粒を少量含む	良	灰白(5 Y%)	浅黄(2.5Y%)		
51	3 T	〃	横方向の縄目叩きの 後、ナデ	8本	横方向の縄目叩き				0.5~1mmの細砂粒を少量含 む	やや軟	灰(7.5Y%)	灰(5 Y%)	凹面に離れ砂	
52	5 T	〃	斜め方向の縄目叩き の一部ナデ	6本	斜め方向の縄目叩き の後、縦方向のナデ				0.5~1mmの細砂粒を少量含む 粒状の褐鉄鉱を含む	良	灰オリーブ(5 Y%)	灰オリーブ(5 Y%)	凸面、凹面に 離れ砂	
53	6 T	〃	横方向の縄目叩きの 後、ナデ	6本	横方向の縄目叩きの 後ナデ				1~4mmの砂粒を含む	やや軟	灰白(2.5Y%) 灰(N%)	灰白(2.5Y%) 灰(N%)		
54	7 T SE5	〃	横方向の縄目叩き	10本	布目痕の上に縄目叩 き				口径3mmの高部小瘤を含む、淡黄 と灰色の粘土がマーブル状になっ ている	良	黄灰(2.5Y%)	黄灰(2.5Y%)		
55	6 T	〃	横方向のナデ		布目痕	18×27			2mm以下の砂粒を少量含む	やや軟	淡黄橙(10YR%)	淡黄橙(10YR%)		
56	7 T SE5	〃	横方向のナデ		斜め方向のナデ、一 部布目痕				粒状~塊状の褐鉄鉱を含む	やや軟	淡黄(2.5Y%)	淡黄(2.5Y%)		
57	6 T	〃	横方向のナデ		布目痕の上にナデ	15×15			きめが細かい	やや軟	灰(N%)	灰(N%)		
58	8 T	〃	ナデ		布目痕の上に横方向 のナデ	18×21			0.5~1mmの砂粒を少量含む	やや軟	灰(5 Y%)	灰(5 Y%)		
59	8 T	〃	ナデ		布目痕の上に縦方向 のナデ	21×21			0.5~2mmの砂粒を含む	良	灰白(5 Y%)	灰(5 Y%)		
60	5 T	〃	ナデ?		布目痕の上にナデ				0.5~2mmの砂粒を少量含む	やや軟	淡黄(2.5Y%)	淡黄(2.5Y%)		
61	8 T	〃	縦方向のナデ		布目痕の上にナデ				粒状の褐鉄鉱、 部小瘤を含む	良	灰(5 Y%)	灰(5 Y%)		
62	1 T	〃	叩き板による縦方向 のナデ		布目痕の上に縦方向 のナデ		凸面に面取り		2mm前後の砂粒を少量含む	良	黄灰(2.5Y%)	灰白(5 Y%)		



第19图 国分寺跡出土土器実測図

表2 国分寺跡土器観察表

遺物番号	出土区	種別	器種	法量		調整			胎土	色		調内面	焼成	備考
				口径	高さ	口径	底径	内面		外面	外面			
1	5 T	土師器	高台付埴		3.5+α	9.4	ヨコナデ	ナデ	1~2mmの砂粒を含む	浅黄橙(10YR%)	浅黄橙(10YR%)	良		
2	5 T	〃	高台付埴		2.0+α	7.6	ヨコナデ	ナデ	細砂粒を含む	浅黄橙(10YR%)	黒(N%)	良	内黒土器	
3	8 T	〃	环	12.4	4.7	ヨコナデ	ヘラ切り	きめ細かい	浅黄橙(10YR%)	淡黄(2.5Y%)	良			
4	6 T SH-13	〃	高台付埴		2.9+α	7.0	ヨコナデ	ヘラ切り	きめ細かい	浅黄橙(7.5YR%)	浅黄橙(7.5YR%)	良		
5	6 T SE2	〃	高台付埴		3.0+α	8.0	ヨコナデ	ナデ	2mm以下の砂粒を多量含む 粒状~塊状の褐鉄を含む	浅黄橙(7.5YR%)	浅黄橙(7.5YR%)	良		
6	6 T SE2	〃	环		1.5+α	6.4	ヨコナデ	ナデ	きめ細かい	淡黄(2.5Y%)	淡黄(2.5Y%)	良		
7	8 T	〃	高台付皿	14.4	2.7	ヨコナデ	ヘラ切り	1mm以下の砂粒, ガラス状に 光る砂粒を多量含む	橙(7.5YR%)	橙(7.5YR%)	良			
8	8 T	須恵器	高台付埴		1.9+α	7.0	ナデ	ヘラ切り	0.5mm前後の砂粒を含む きめ細かい	灰(5Y%)	灰(10Y%)	良	生焼け	
9	3 T	〃	高台付埴		4.3+α	7.2	ナデ	ナデ	1mm前後の砂粒を少量含む	灰(10Y%)	灰(5Y%)	堅	緻	
10	5 T	〃	环				ナデ	ナデ	きめ細かい	灰(N%) 灰(N%)	オリーフ灰(2.5GY%)	堅	緻	口縁部外面に 自然釉
11	5 T	〃	环				ナデ	ナデ	きめ細かい	灰白(2.5Y%)	灰白(2.5Y%)	良		
12	5 T	〃	环		2.6+α	6.0	ナデ	ナデ	1mm前後の砂粒を少量含む	灰(5Y%)	灰(5Y%)	堅	緻	
13	1 T	〃	环		2.4+α	5.3	ナデ	ナデ	きめ細かい	灰黄(2.5Y%)	灰黄(2.5Y%)	堅	緻	
14	7 T	〃	环				ナデ	ナデ	きめ細かい	灰白(2.5Y%)	灰白(2.5Y%)	堅	緻	口縁部外面に 自然釉
15	9 T	土師器	环	12.8	4.2	ヨコナデ	ヘラ切り	2mm以下の砂粒を少量含む	橙(5YR%)	橙(5YR%)	良			
16	11 T	〃	环	13.0	4.4	ヨコナデ	ヘラ切り	きめ, やや粗い 1mm前後の砂粒を少量含む	にぶい橙(5YR%)	にぶい橙(5YR%)	良			
17	11 T	〃	环	12.6	5.1	ヨコナデ	ヘラ切り	3mm前後の礫, 細砂粒を多量 含む	にぶい黄橙(10YR%)	にぶい黄橙(10YR%)	良			
18	9 T	〃	环	12.2	5.0	ヨコナデ	ヘラ切り	0.5~2mmの砂粒を多量含む	橙(7.5YR%)	橙(7.5YR%)	良			
19	9 T	〃	环	14.0	6.0	ヨコナデ	ナデ	きめ細かい, 2mm以下の砂粒 を含む	浅黄橙(10YR%)	浅黄橙(10YR%)	良			
20	9 T	〃	高台付埴	13.6	6.3	ヨコナデ	ナデ	1~2mmの砂粒を含む	浅黄橙(7.5YR%)	浅黄橙(7.5YR%)	良			
21	9 T	〃	高台付埴	16.8	10.2	ヨコナデ	ナデ	赤色の酸化鉄粒~6mm塊を含 む, きめ細かい	浅黄橙(7.5YR%)	浅黄橙(7.5YR%)	良			

遺物 番号	出土区	種別	器種	法量		調			色		胎土	調		焼成	備考
				口径	器高	cm	外面	内面	底面	外面		内面			
22	11T	土師器	高台付埴		6.3+ α	11.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ		1mm以下の砂粒を多量含む。0.5mm以下のガラス状に光る細砂粒を含む。	橙(5YR%)	橙(5YR%)	良	
23	11T	須恵器	高台付埴		3.8+ α	6.8	ナデ	ナデ	ナデ		1mm前後の砂粒を含む。	灰(5Y%)	灰(10Y%)	良	

c ナデ (第18図55~58)

55~57は凸面は筒部・玉縁部ともきれいにナデ消しており、凹面には布目を残している。焼成は軟のことが多い。58は筒部端面の凹面側の面取りを施し、凸面側が跳ね上る。

(2) 土師器 (第19図1~7・15~22)

ヘラ切り底の坏は、平底に直線的に開く体部がつくタイプで、法量では19のように口径14.0cm、器高6.0cm、底径6.8cmのⅠ-A-1類、15・16のように口径12.8~13.0cm、器高4.2~4.4cm、底径6.8~7.4cmのⅠ-A-2類、3・17・18のように口径12.2~12.6cm、器高4.7~5.1cm、底径6.2~7.3cmのⅠ-A-3類に分かれる。特に19は底部が外方に張り出しており、体部と底部の境が明瞭である。20と21は高台付き碗であるが、20は直線的に開く体部と長い高台を有するのに対して、21は長い脚状の高台がつく。7は高台付き皿である。

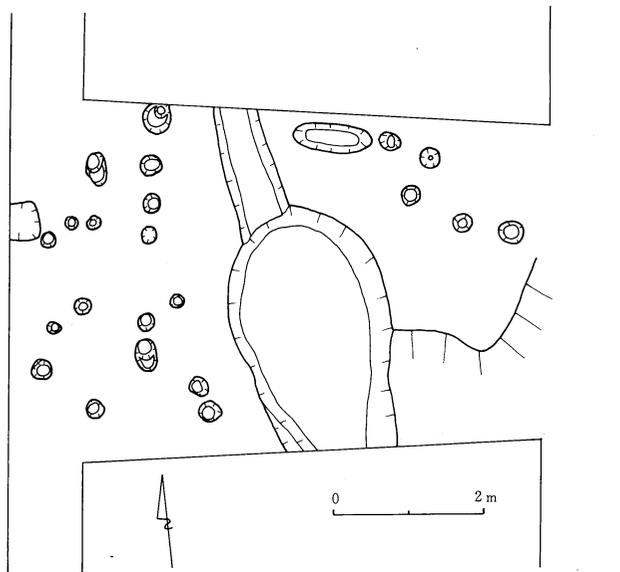
(3) 須恵器 (第19図8~14・23)

須恵器には8・9のように高台が短く外方に伸びる高台付き碗と12・13のように底部が平底の坏、25のように上げ底の坏がある。坏の蓋は10・11のように口縁部の端部が下方へわずかに屈曲しているタイプである。

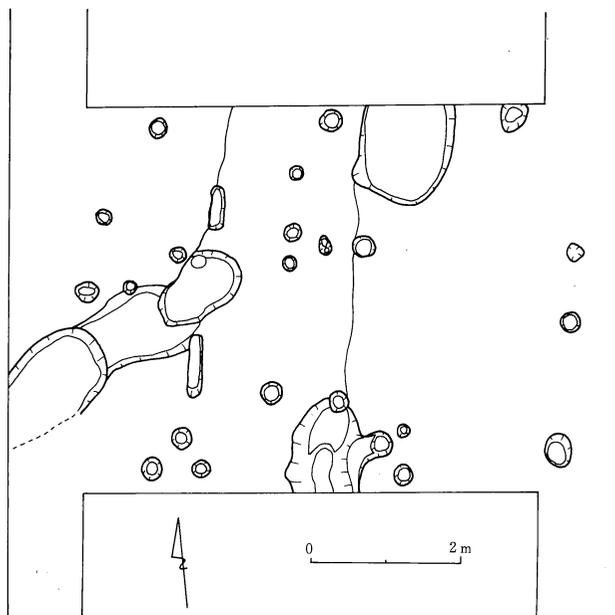
2. 上尾筋遺跡

上尾筋遺跡は、印鑰神社に近く、国府推定地の一つに上げられる遺跡である。しかし、同遺跡は、同時に西都原古墳群の南端に分布する前方後円墳3基、円墳7基から構成されるグループが位置する場所でもある(第20図)。調査区は、前方後円墳ならびに円墳に囲まれた畑地に設定した。1・2トレンチのいずれも、日向国分寺跡にみられたような大規模な柱穴は検出されず、調査区内において掘立柱建物跡を確定するには至らなかった。1トレンチでは、小柱穴ほか溝状遺構と土坑が検出されているが、このうち土坑からは比較的新しい鉄製の轡が出土し、また周辺において馬歯が検出されていることから、馬の埋葬のための土坑と判断される。

2トレンチにおいても土坑等が検出されているが、いずれも近時的な遺構とみられ、遺構の上から推定される国府等の証拠を求めることは出来ない。



1トレンチ

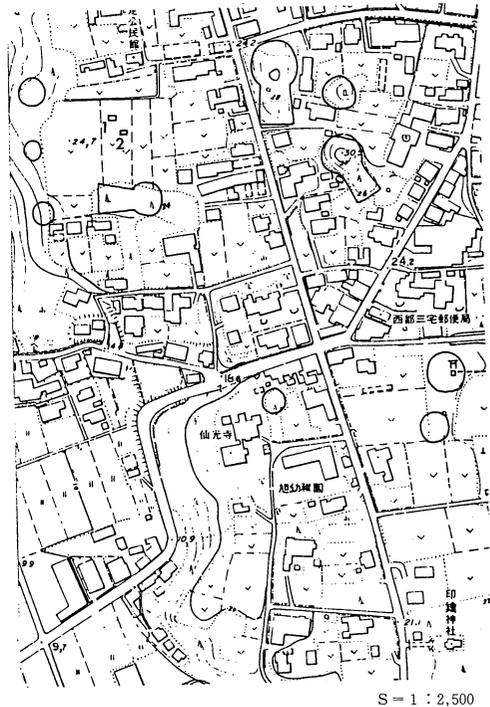


2トレンチ

第20図 上尾筋遺跡遺構実測図

第21図

平成元年度試掘トレンチ設定図(上尾筋遺跡) 及び古墳分布図



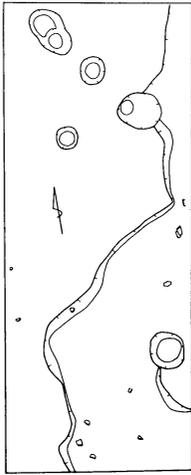
第3節 平成2年度試掘調査

1. 寺崎遺跡

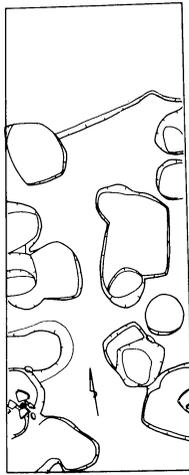
1) 調査区の設定と概要

平成2年度の9月～10月に行われた一次調査では2m×5mのトレンチを南北方向に8本設定し、試掘調査を行なった。その結果、今回の分布調査の目的である奈良時代の遺物としては特にT8で畿内地方の搬入土器であるらせん状の暗文を施した土師器の坏が出土したことは特に注目される。8本のトレンチから出土した瓦はすべて凸面横方向縄目叩きであり、日向国分寺で出土している凸面格子目叩きの瓦は僅か2点しか出土していない。平瓦の特徴から日向国分寺の瓦と須恵器を生産した可能性が非常に高い佐土原町の下村窯跡の瓦と良く類似している。また軒丸瓦・軒平瓦も全然出土していない。出土した須恵器は6世紀後半、7世紀後半、8世紀後半の時期であるが、主体は8世紀後半の時期である。須恵器の中には転用硯が3点出土しているが、硯と墨書土器は出土していない。当時期の遺構としては東西方向に伸びる方形プランの掘り方の柱が2本検出されたが、1棟の掘立柱建物として範囲を確認することはできなかった。しかし、二次調査で主軸が東西方向の掘立柱建物群が確認された。他の時期の遺物としてはアカホヤ上層までしか調査していないが、縄文時代後期の縄文土器、晩期の黒色磨研土器・孔列土器、弥生時代の石庖丁、古墳時代の須恵器・土師器、平安時代の須恵器・土師器、鎌倉時代の青磁などが出土した。

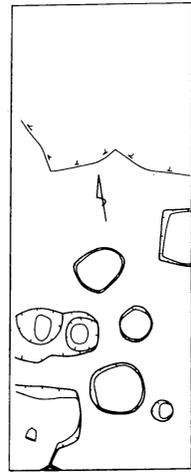
2) 遺跡の立地と環境



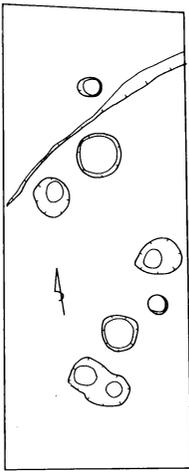
T 1



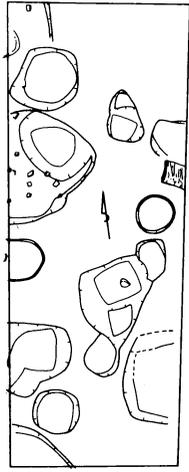
T 6



T 2



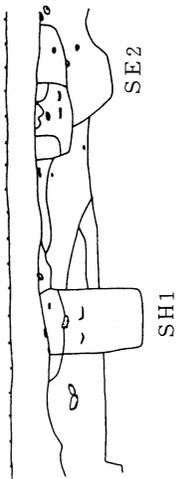
T 5



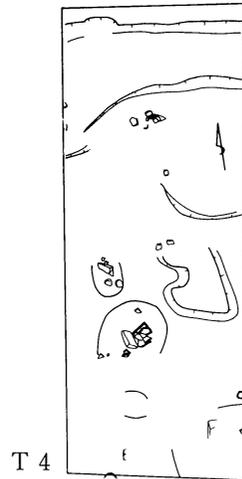
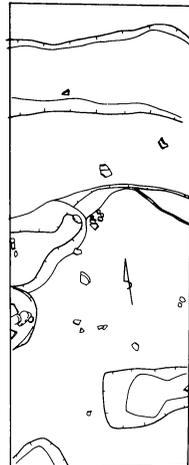
T 7



T 3



T 8



T 4

第23図 寺崎遺跡トレンチ配置図



寺崎遺跡は行政区では西都市大字右松字寺崎に所在する。一ツ瀬川右岸に広がる沖積平野部に位置する国府推定地の一つで、日向国分寺の北東約1.8kmに位置する。標高20mである。この国府推定地の中には寺崎遺跡・法元遺跡・上妻遺跡が含まれており、この3遺跡からは布目瓦が出土している。

3) 包含層の状態

当遺跡の基本層序は第Ⅰ層が褐色土層(Hue 7.5 YR 4/3・表土)、第Ⅱ層が暗褐色土層(Hue 7.5 YR 3/3)、第Ⅲ層が黒色土層(Hue 7.5 YR 2/1・河原石混じりの層)、第Ⅳ層が黄橙色土層(Hue 7.5 YR 6/6・アカホヤ層)、第Ⅴ層が明褐色土層(Hue 7.5 YR 5/6)である。遺物は第Ⅱ層と第Ⅲ層から瓦・須恵器・土師器等が出土している。

4) 奈良時代の遺構と遺物

遺 構

1. 柱穴

柱穴はT1～T8で柱穴が50個検出されたが、掘立柱建物が完全に復元されるのではない。T7で検出されたSH1は一辺が92cm×82cmの方形プランで、検出面からの深さ52cmであり、二次調査で東に2.5mの位置で方形プランの柱穴が確認された。T8で検出されたSH1は二段掘りの方形プランで、一辺長が70cmの深さ102cmである。

2. 溝

T8のSE1は幅70cm、深さ49cmで東西方向に走っている。この溝の中には平瓦・丸瓦と粘土がびっしりと詰まっていた。

遺 物

当遺跡では軒丸瓦・軒平瓦は全然出土していない。今回はT8のSE1とT4・8出土の瓦のみを図示する。

1. 平瓦

当遺跡出土の平瓦は凸面の叩きと凹面の調整によって次のように分けることができる。

第Ⅰ類 格子目叩き

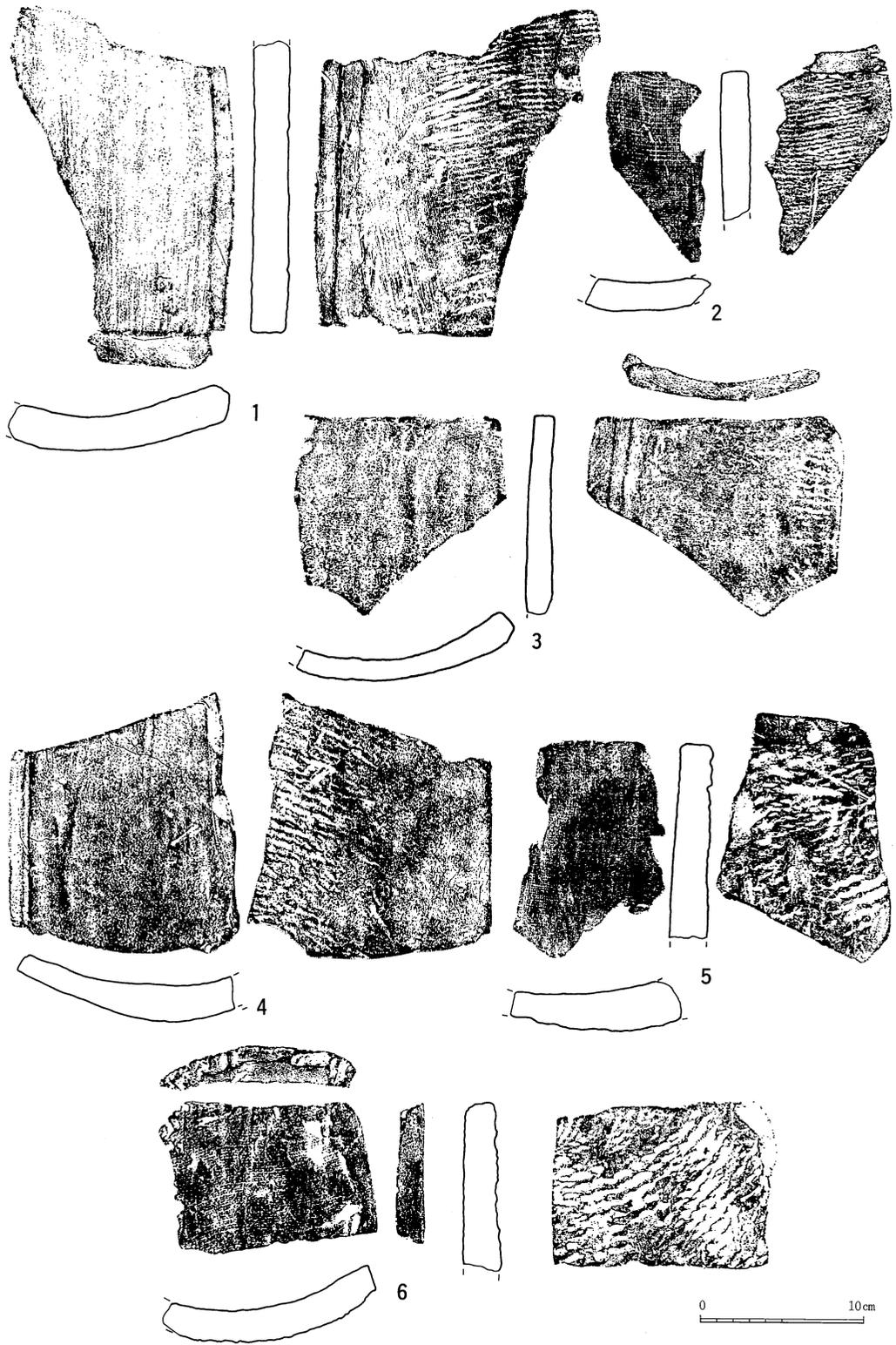
格子目叩きには正格子・長方形格子はなく斜格子のみである。

a 斜格子目叩き (第29図41)

41は斜格子の一辺長が6mm×5mmの規格のものだけである。

第Ⅱ類 縄目叩き

縄目叩きは5cmあたりの縄目の条数を計測し、13条以下を粗縄目、14条以上を精縄目とす



第24図 寺崎遺跡出土瓦実測図(I)

る。縄目の叩きの方向は横方向のみである。

a 横精縄目叩き (第24図1・2)

凹面の調整によって布目の1類がある。1は側面の凹面側を面取りを行い、凹面・凸面とも叩き板によるナデを縦方向に施している。

b 横粗縄目 (第24図3～6、第25図7～8、第28図35、第29図36～38)

凹面は布目の1類(3～6・35)、粗縄目叩きとナデの2類(37)、ナデの3類(7・8・38)、縦粗縄目叩きの後の布目の4類(32～34)に分かれる。1類には側面の断面によって3・4のように凸面側を面取りするものと、6のようにしないものがある。35は側面の凸面がわずかに段状になる。2類の37は側面は面取りをしない。3類は7・8・38のように側面の凸面が段状になる。32～34は4類で、側面は面取りを施していない。T8のSE1からは1・3類のみである。

第Ⅲ類 叩きの跡をきれいにナデ消す

a 叩き板によるナデ (第25図13、第26図14、第29図39・40)

14は凸面には叩き板によるナデを、凹面には布目の上から叩き板によるナデを斜方向に施している。側面は両面とも面取りを施していない。13は凹面の布目をきれいにナデ消しており、凸面が段状になる。

40は凹面は布目の後に叩き板によるナデを横方向に施している。39は凹面・凸面とも叩き板によるナデを縦方向に施しているが、凸面の側面部付近に布目を残す。両面に指押えの跡を明瞭に残す。39・40は側面は両面とも面取りを施している。39・40はT8のSH1から出土している。

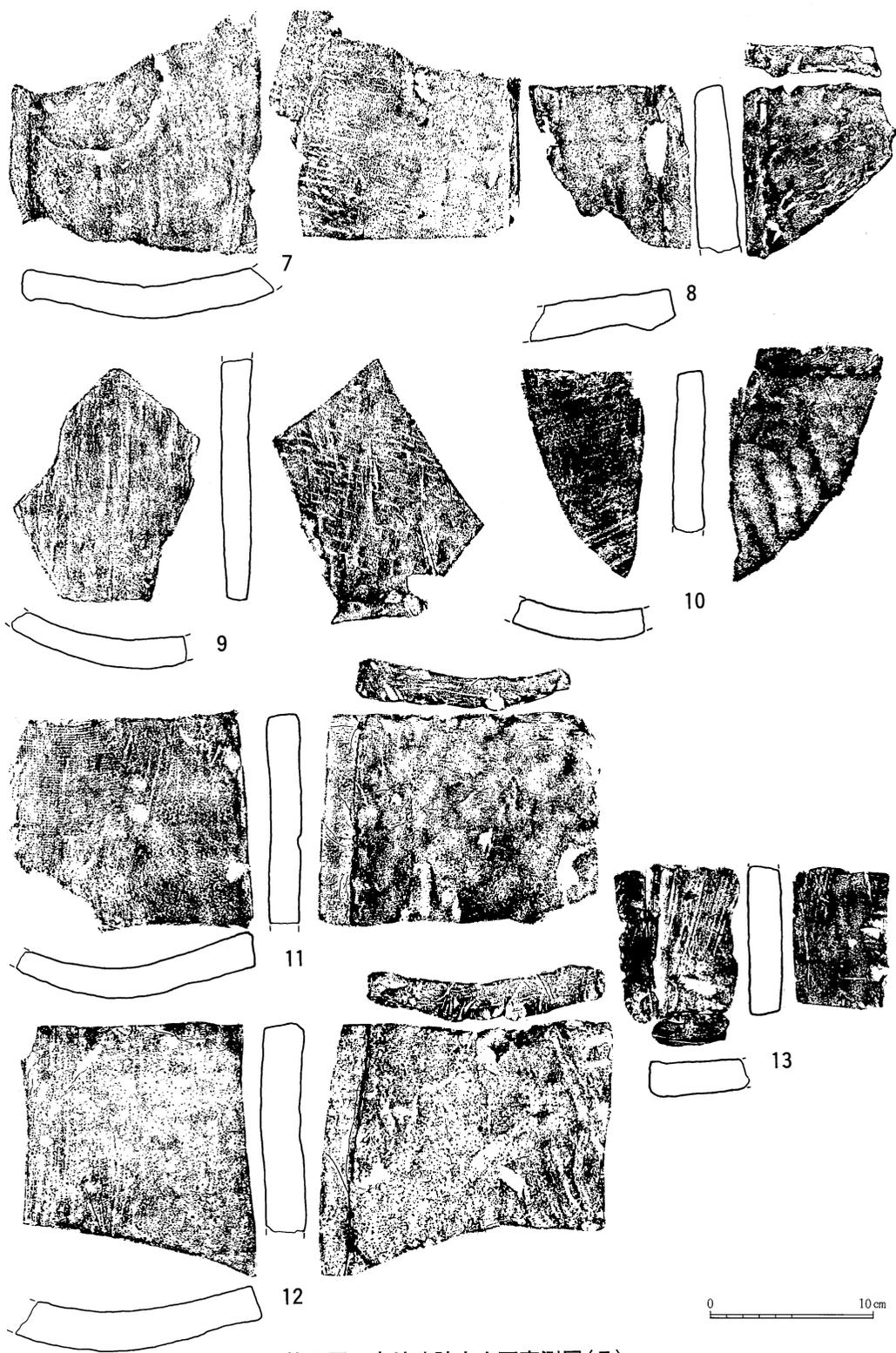
b ナデ (第25図10～12、第26図15～20)

凸面は叩きの上からきれいにナデ消し、凹面の調整によって布目の上から部分的にナデを施す1類(11・12)、叩き板によるナデを施す2類(10・15～17)、きれいにナデ消す3類(18～20)に分かれる。

11・12は側面の凹面側に幅の狭い面取りを施している。16は側面は凸面側が短い段を有し、凹面側に面取りを施している。17は高い段を有し、凸面側を面取りしている。18は側面が少し段状を呈し、凹面側を面取りしているが、19・20は面取りしていない。

3. 丸瓦

丸瓦は玉縁式と行基式のもので、凸面の叩きによって平行・格子目・縄目を残すものに分かれる。



第25図 寺崎遺跡出土瓦実測図(Ⅱ)

a 平行叩き (第27図21~24、第28図28・29、第30図48)

21~24・28・29は凸面が平行叩きの丸瓦で、凹面は布目を残しており、部分的にナデ消している。21は中心部に向って斜方向に叩いており、平行叩きは5cm幅に10条の溝がある。筒部の端面と玉縁部の端面を欠如しており、玉縁部と段部の側面には面取りを施している。玉縁部の側面は23・24のように面取りを施すものと、21・22のように施さないものがある。面取りしない22は玉縁部の長さが3.5cmと短い。T8のSE1は主体は平行叩きである。48は凸面には粗い平行叩きを、凹面には布目を残している。

b 格子目叩き (第28図33)

T8のSE1から僅か1点出土した31は一辺長6mm×4mmの斜格子叩きを施し、凹面はナデ消している。筒部の端面は凸面側が面取りをしている。

b 縄目叩き (第28図27~30、第29図40・41、第30図42~48)

凸面の縄目叩きはすべて横方向であり、凹面の調整によって布目の1類(30・45)、横方向の縄目叩きの上の布目の2類(42・43)、横方向の縄目叩きの3類(44・46)に分かれる。

30は筒部端面の凹面側を面取りしているのに対して42・43は筒部の側面・端面とも面取りを施していない。27は筒部と玉縁部の段は浅い。

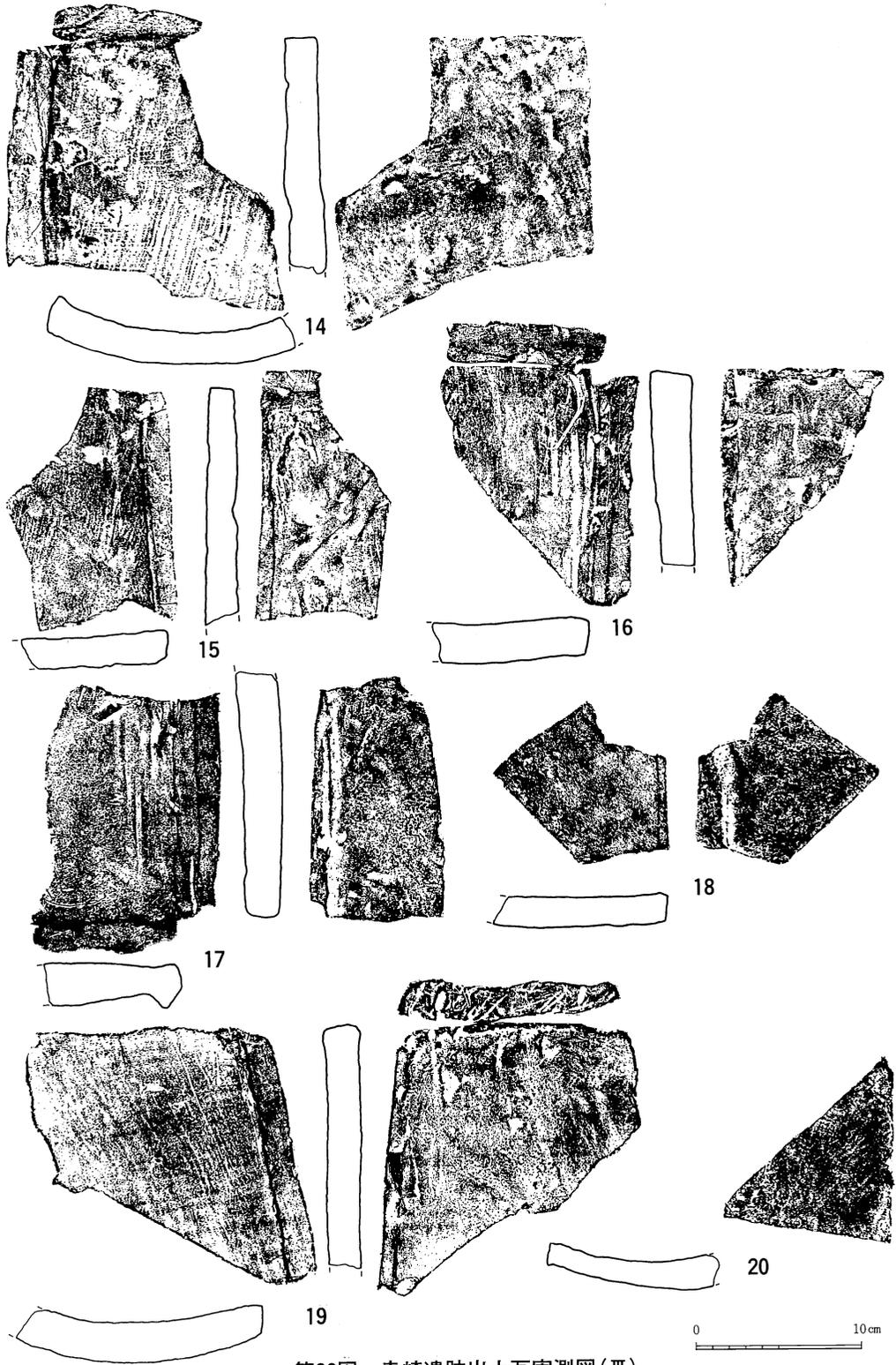
(2) 土師器

土師器としては1・3・4のようなヘラ切りの坏や2・5のような高台付き椀が出土している。1はT8のSE1から出土しており、口径9.9cm、器高3.6cm、底径4.6cmと国分寺の坏に比較すると一回り小さい。3は口径12.3cm、器高4.5cm、底径4.5cmで、分量では国分寺の坏I-A-3類に属する。2はT8のSH1から出土しており、長い高台から5のように直線的に開く体部を有すると推定される。

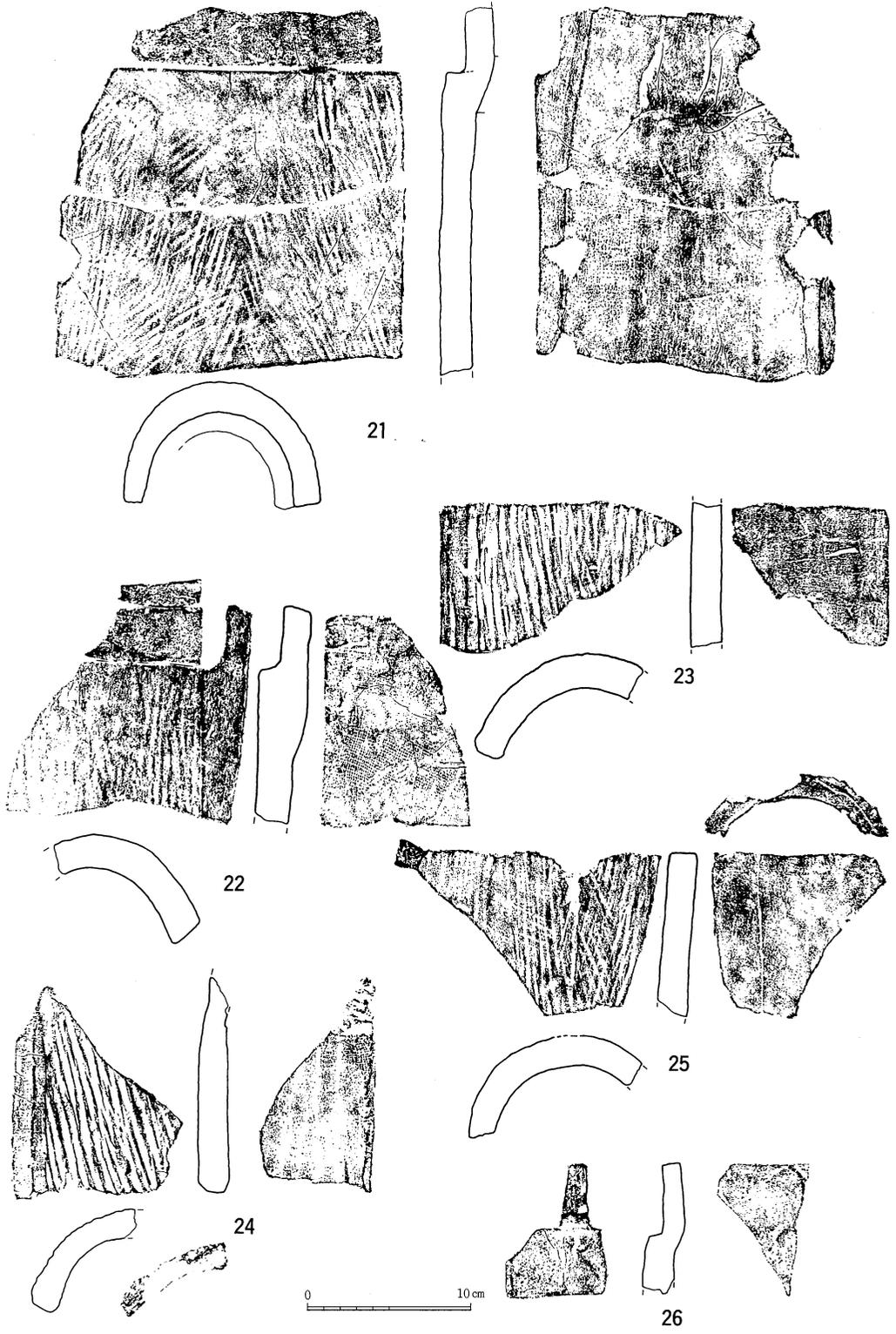
9は口径19.2cm、器高4.0cmの宝珠つまみ付きの蓋で、天井部は平坦で口縁部は緩やかに下方に伸び、かえりを有しない。外面はヘラミガキを、内面にはらせん状の二段の暗文を施しており、胎土はきめ細かい。10は口径17.0cm、器高5.2cmの椀で、内外面とも丁寧にヘラミガキを施している。口縁部の内面は連弧状の暗文の可能性ある。9・10は胎土・技法の点で明らかに畿内の搬入品である。11は環状つまみを有する蓋で、口縁端部が下方に屈曲している。口径18.4cm、器高4.0cmである。焼成が良好であるので須恵器の生焼けの可能性もある。

(3) 須恵器

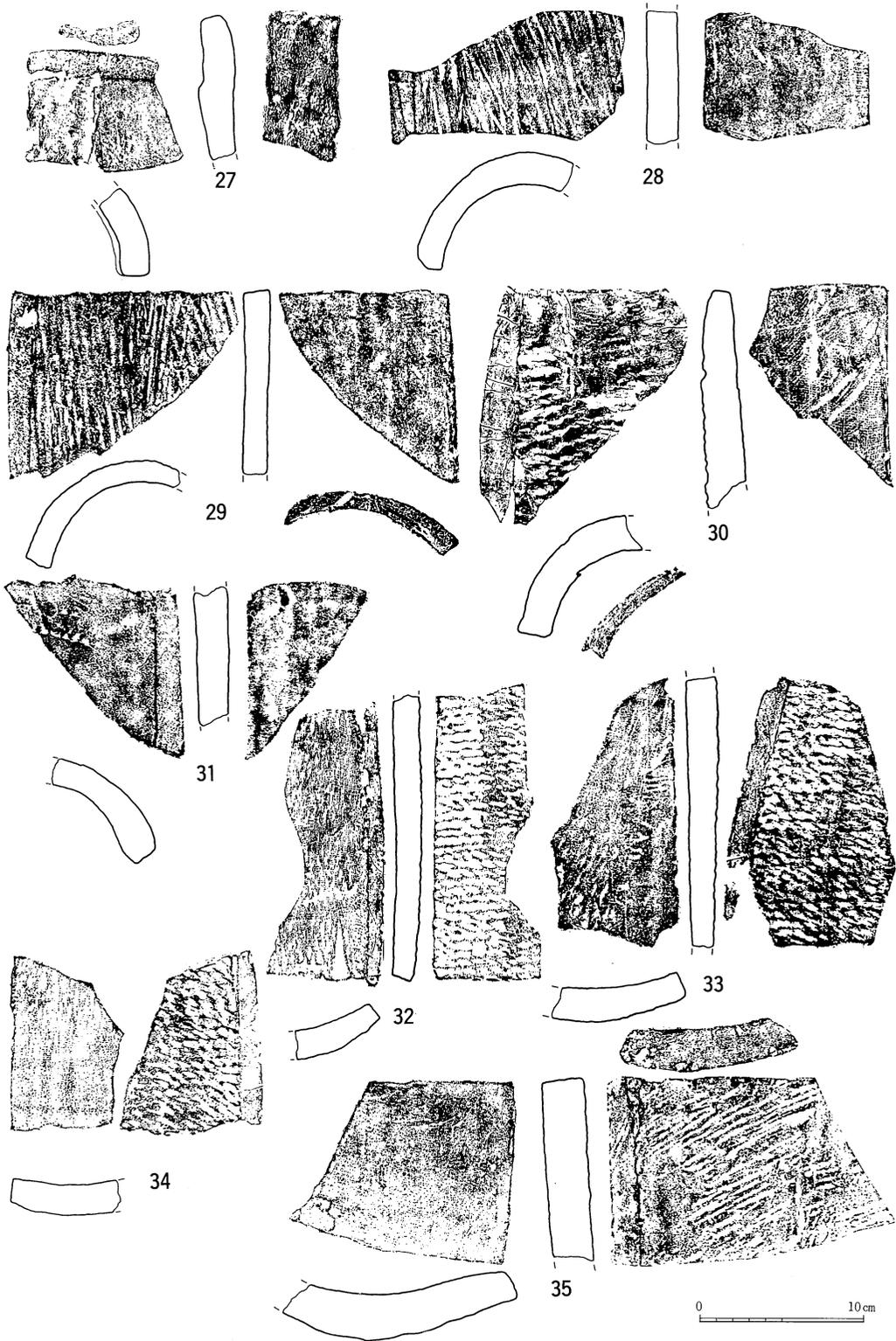
12の坏身は立ち上がり斜目上方に伸び、途中から垂直に伸びている。口径10.4cm、器高2.9cm+α。13・15は宝珠つまみ付きの蓋でかえりを有する。それに対して16はかえりがな



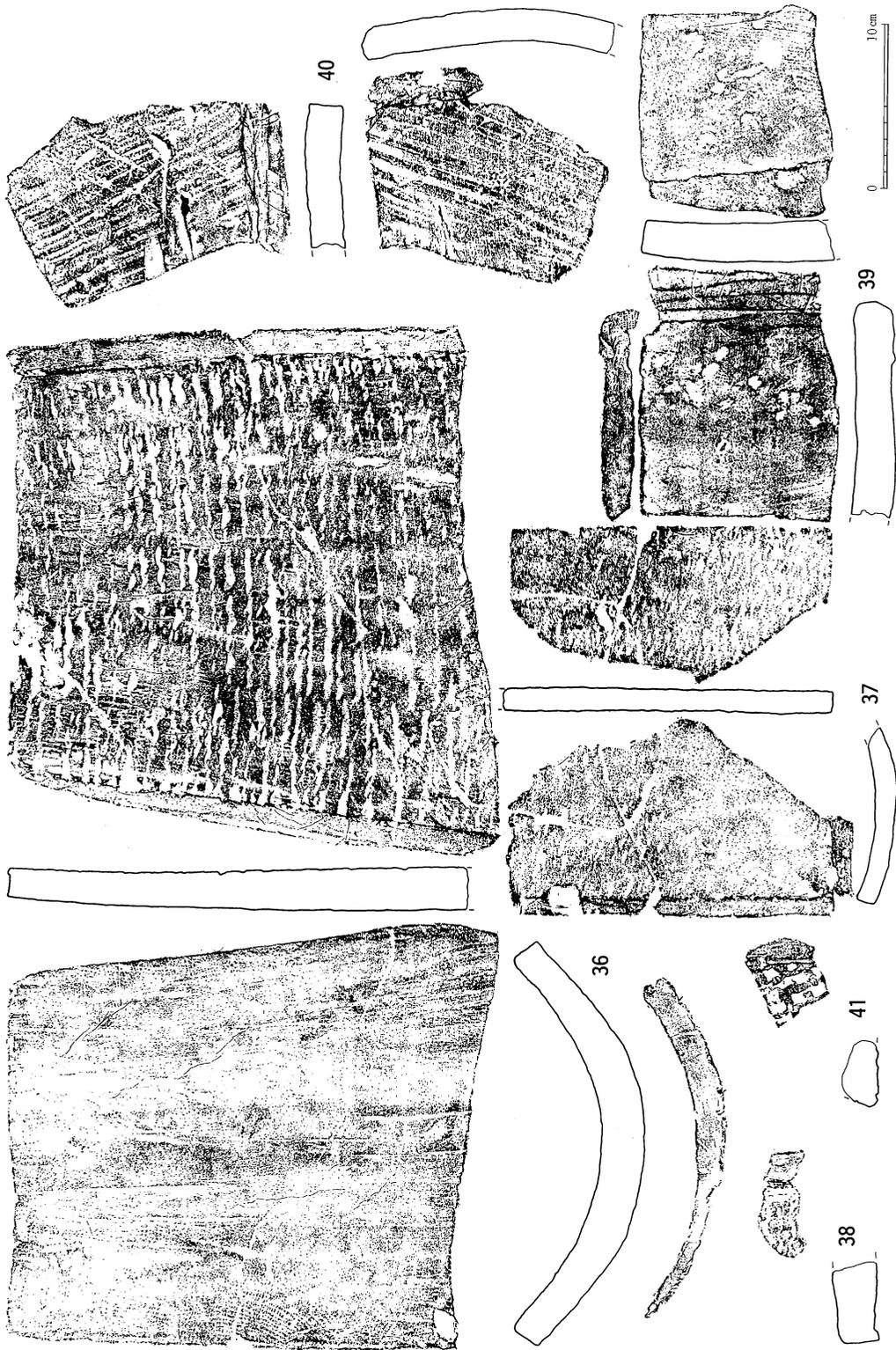
第26図 寺崎遺跡出土瓦実測図(Ⅲ)



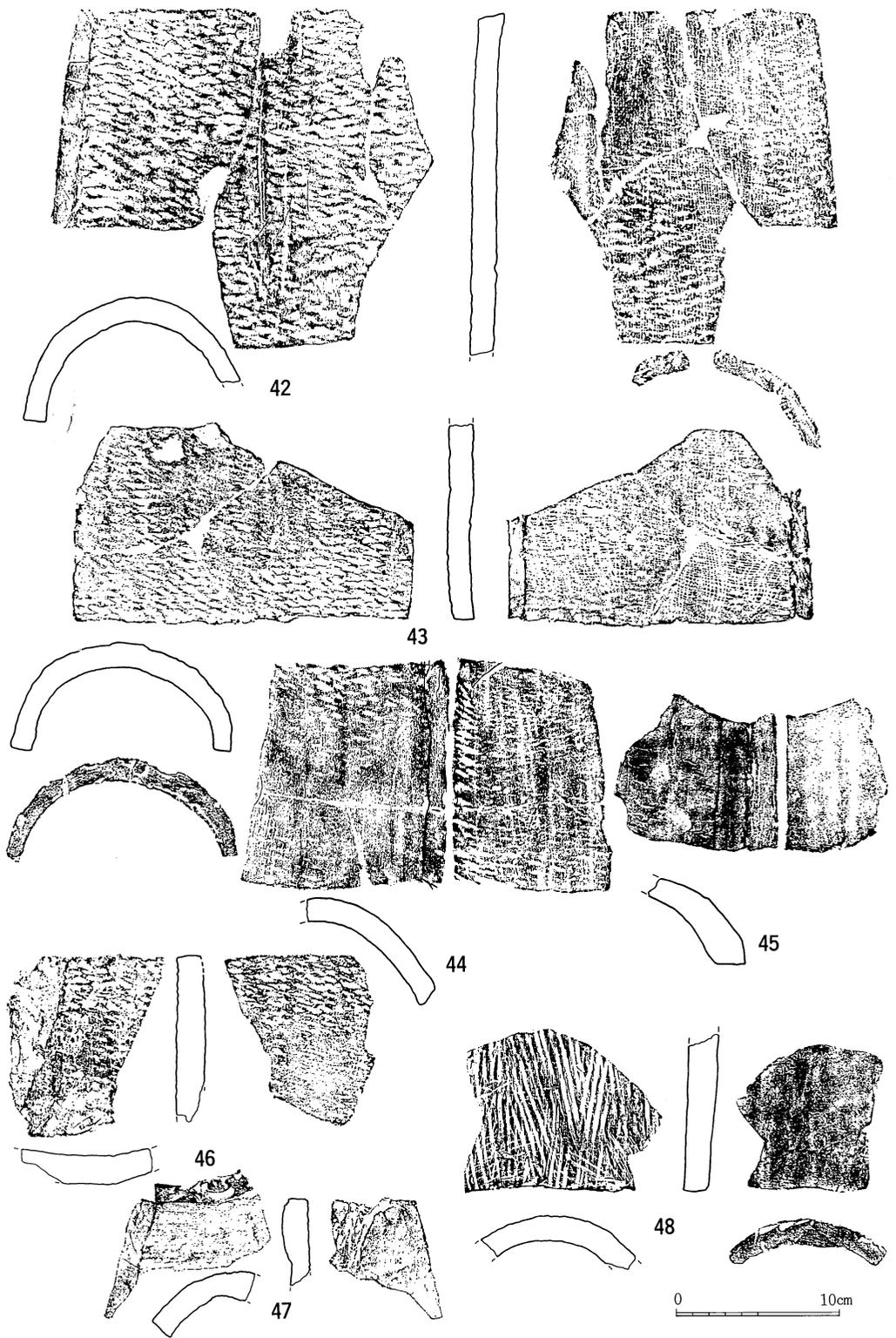
第27図 寺崎遺跡出土瓦実測図(Ⅳ)



第28図 寺崎遺跡出土瓦実測図(V)



第29图 寺崎遺跡出土瓦実測図(VI)



第30图 寺崎遺跡出土瓦実測図(VII)

くなり、比較的高い天井部から緩やかに伸び、端部が下方に屈曲する。17もかえりはないが、扁平で低い天井部先端が外へ短く開き、端部が斜め下方に伸びている。18は環状つまみの蓋で、天井部と口縁部が屈曲し、口縁部が斜め下方に伸びる。19～21は高台付き椀で、19は底径が12.2cmと大きい平底に直線的に開く体部がつき、口縁部でわずかに外反する。底部と体部の境は明瞭で、境より内側に外に開く短い高台がつく。18～20は転用硯であり、18・20が内面を使用しているのに対して19は高台の内面を使用している。22は椀状の坏部を有する高坏で、口縁端部は平坦に仕上げている。

表3-(1) 寺崎遺跡瓦観察表

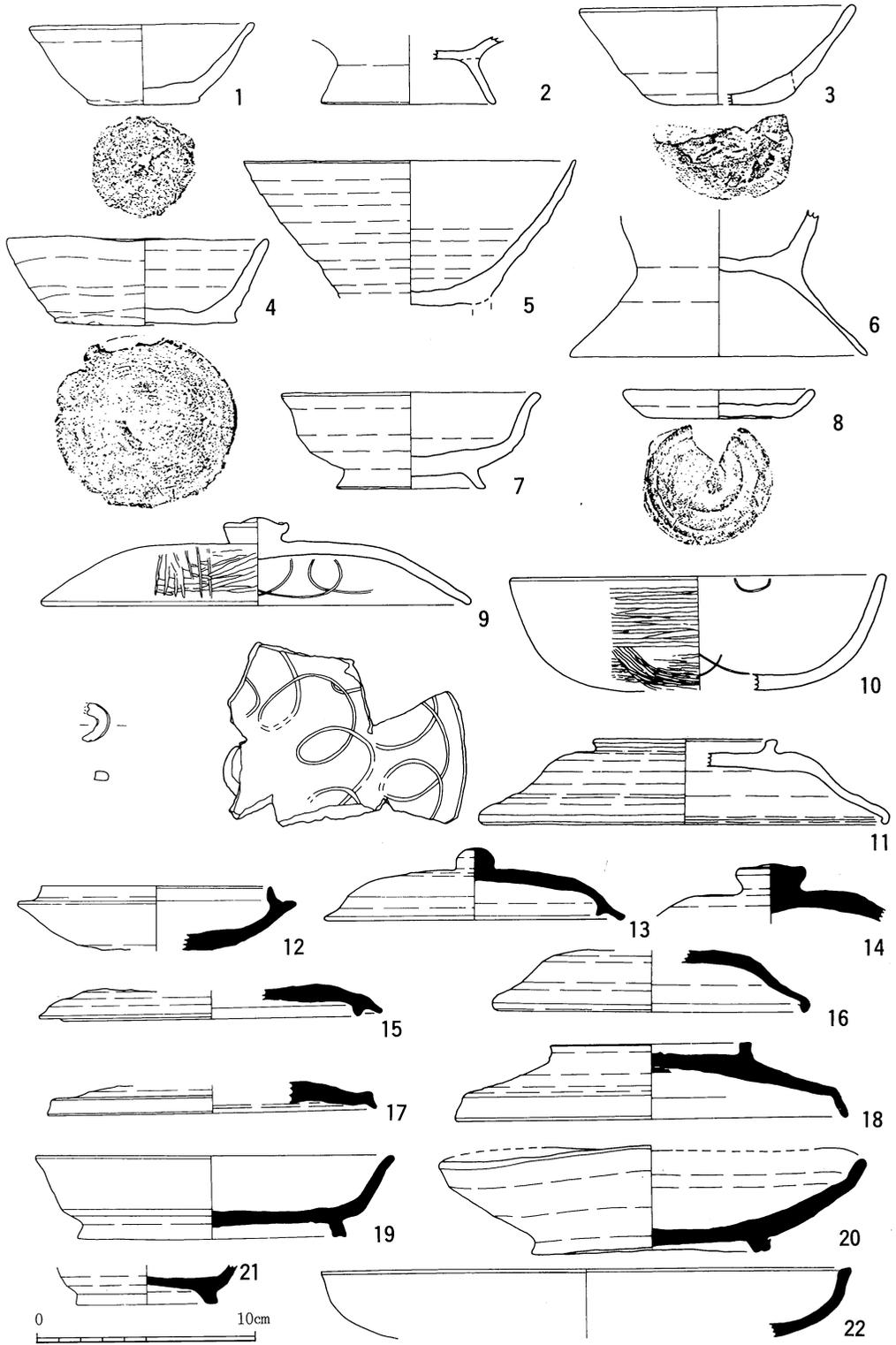
遺物番号	出土区	種類	凸面調整	縄目条数	凹面調整	布目の経緯数	側面調整	端面調整	胎	土	焼成	色		備考
												凸面	凹面	
1	T 8 SE1	平瓦	斜め方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ	14本	布目痕の上に縦方向のナデ、一部縦方向の平行叩きのナデ	21×18	凹面に面取り		粒状~塊状の褐鉄鉱を含む	褐灰(10YR 4)	良	褐灰(10YR 4)	浅黄橙(10YR 4) 褐灰(10YR 4)	
2	T 8 SE1	〃	斜め方向の縄目叩きの後、縦方向のナデ	18本	布目痕の上に斜め方向のナデ	20×25	凸面に面取り		0.5~3mmの砂粒を含む	黄灰(2.5Y 4)	やや軟	黄灰(2.5Y 4)	黄灰(2.5Y 4)	
3	T 8 SE1	〃	横方向の縄目叩きの後、ナデ	10本	布目痕の上にナデ		凸面に面取り		1mm前後の細砂粒を少量含む。灰白(7.5Y 4)になる	灰白(2.5Y 4)	やや軟	灰白(2.5Y 4)	灰白(2.5Y 4)	
4	T 8 SE1	〃	斜め方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ	11本	布目痕の上に斜め方向のナデ				1mm以下の砂粒を含む。灰色と黄褐色の胎土がマーブル状になっている	灰白(5Y 4)	やや軟	灰白(5Y 4)	灰(5Y 4)	
5	T 8 SE1	〃	斜め方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ	7本	布目痕の上に縦方向のナデ	21×21			0.5~2mmの砂粒を含む	黄灰(2.5Y 4)	やや軟	黄灰(2.5Y 4)	黄灰(2.5Y 4)	
6	T 8 SE1	〃	斜め方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ	7本	布目痕の上に斜め方向のナデ	18×24	凹面に面取り		1mm以下の砂粒を含む	黄灰(2.5Y 4)	良	黄灰(2.5Y 4)	黄灰(2.5Y 4)	
7	T 8 SE1	〃	斜め方向の縄目叩きの後、横方向のナデ	10本	横方向のナデ、横・縦方向のナデ				灰白(5.0Y 4)の胎土がマーブル状になっている。0.5~2mmの砂粒を多量含む	灰白(7.5YR 4)	やや軟	灰白(7.5YR 4)	灰白(7.5YR 4) 黄灰(2.5Y 4)	
8	T 8 SE1	〃	斜め方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ	8本	斜め・横方向のナデ		凸面に面取り		白色と褐色の胎土がマーブル状になっている。粗粒の褐鉄鉱を少量含む	黄灰(2.5Y 4)	やや軟	黄灰(2.5Y 4)	黄灰(2.5Y 4)	
9	T 8 SE1	〃	横方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ	9本	縦方向のナデ				0.5mm以下の細砂粒を少量含む	灰白(2.5Y 4)	やや軟	灰白(2.5Y 4)	灰白(2.5Y 4)	
10	T 8 SE1	〃	ナデ		布目痕の上に斜め方向の叩き筋によるナデ		凹面に面取り		1mm前後の細砂粒を含む 褐鉄鉱を含む	淡黄(2.5Y 4)	やや軟	淡黄(2.5Y 4)	淡黄(2.5Y 4)	凸面に指頭痕
11	T 8 SE1	〃	縦方向のナデ		布目痕の上にナデ、一部叩き筋による斜め方向のナデ		凹面に面取り		1mm前後の砂粒を少量含む	灰(5Y 4)	良	灰(5Y 4)	灰(5Y 4)	
12	T 8 SE1	〃	斜め方向のナデ		布目痕の上に斜め方向のハケメ、縦方向のナデ				1~2mmの砂粒を少量含む	灰(N 4)	やや軟	灰(N 4)	灰白(7.5Y 4)	凸面に離れ砂
13	T 8 SE1	〃	縦方向のナデ、指押え		斜め方向の平行叩き				微粒子を含む	黒褐(10YR 4)	良	黒褐(10YR 4)	褐灰(10YR 4)	
14	T 8 SE1	〃	ナデ		布目痕の上に斜め方向の平行叩き				1mm前後の細砂粒を含む	灰白(7.5Y 4)	やや軟	灰白(7.5Y 4)	灰白(7.5Y 4)	
15	T 8 SE1	〃	斜め方向のナデ、叩き板によるナデ		布目痕の上に叩き板による斜め方向のナデ	12×?	凸面に面取り		7mm前後の礫を含む。白色と灰色の胎土がマーブル状になっている	褐灰(10YR 4)	良	褐灰(10YR 4)	褐灰(10YR 4)	凸面・凹面に指頭痕
16	T 8 SE1	〃	斜め方向のナデ		縦方向の平行叩きの後、縦方向のナデ、斜め方向の叩き板によるナデ				粒状~塊状の褐鉄鉱を含む	褐灰(10YR 4)	やや軟	褐灰(10YR 4)	灰白(10YR 4)	
17	T 8 SE1	〃	縦方向の平行叩きの後、斜め方向のナデ	8本	斜め・横方向のナデ		凹面に面取り		0.5~2mmの砂粒を含む。粒状~塊状の褐鉄鉱を含む	浅黄橙(10YR 4)	やや軟	浅黄橙(10YR 4)	灰白(10YR 4)	
18	T 8 SE1	〃	ナデ		横ナデ				1mm前後の細砂粒を少量含む 鉄鉱を少量含む	灰白(5Y 4)	軟	灰白(5Y 4)	灰白(5Y 4)	
19	T 8 SE1	〃	斜め方向のナデ		斜め方向の叩き板によるナデ				粒状の褐鉄鉱を少量、微粒子を少量含む	黄灰(2.5Y 4)	良	黄灰(2.5Y 4)	黄灰(2.5Y 4) 浅黄(2.5Y 4)	凸面に離れ砂
20	T 8 SE1	〃	横方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ		縦方向のナデ				1mm前後の細砂粒を少量含む	灰白(2.5Y 4)	やや軟	灰白(2.5Y 4)	黄灰(2.5Y 4) 灰白(2.5Y 4)	凹面に指頭痕
21	T 8 SE1	丸瓦	縦・横・斜め方向の平行叩き	11本	布目痕	24×21	凹面に面取り		1mm前後の細砂粒を少量含む	褐灰(10YR 4)	やや軟	褐灰(10YR 4)	にぶい黄(2.5Y 4) 灰(5Y 4)	

表3-(2)

遺物番号	出土区	種類	凸面調整	縄目条数	凹面調整	布目の経緯数	側面調整	端面調整	胎土	焼成	色面		備考
											凸面	凹面	
22	T 8 SE1	丸瓦	縦方向の平行叩き	10本	布目痕の上にナデ	21×24			微粒子を少量含む	やや軟	褐灰(10YR%)	褐灰(10YR%)	
23	T 8 SE1	〃	斜め方向の平行叩き	9本	一部布目痕、ナデ		凸面・凹面に面取り		粒状の褐鉄鉱を少量含む	良	褐灰(10YR%)	褐灰(10YR%)	
24	T 8 SE1	〃	斜め方向の平行叩き	9本	布目痕の上にナデ	18×18		凹面に面取り	粒状の褐鉄鉱を少量含む	良	褐灰(10YR%)	褐灰(10YR%)	
25	T 8 SE1	〃	縦・斜め方向の平行叩き	12本	布目痕	21×24			微粒子を少量含む	良	褐灰(10YR%)	褐灰(10YR%)	
26	T 8 SE1	〃	ナデ		一部布目痕				0.5~1mm前後の砂粒を含む	やや軟	灰白(7.5Y%)	灰(7.5Y%)	
27	T 8 SE1	〃	一部に縄目叩き、縦・横方向のナデ	15本	斜め方向のナデ				0.5~1mmの砂粒を少量含む	軟	灰白(7.5YR%)	灰白(7.5YR%)	
28	T 8 SE1	〃	斜め方向の平行叩きの後、斜め方向のナデ	9本	布目痕の上に叩き版による斜め方向のナデ		凸面に面取り		粒状の褐鉄鉱・砂粒を含む	やや軟	淡黄(2.5Y%)	淡黄(2.5Y%)	
29	T 8 SE1	〃	縦方向の平行叩き	15本	ナデ				粒状の褐鉄鉱・微粒子を少量含む	軟	浅黄(2.5Y%)	浅黄(2.5Y%)	
30	T 8 SE1	〃	横方向の縄目叩きの後、ナデ	7本	布目痕の上に叩き版による斜め方向のナデ	18×24	凹面に面取り		微粒子を少量含む	良	灰白(2.5Y%) 黄灰(2.5Y%)	灰白(2.5Y%)	
31	T 8 SE1	〃	一部斜格子目叩き	5×4mm	ナデ		凹面に面取り		1~5mmの砂粒を少量含む	やや軟	灰白(5Y%)	灰(N%)	
32	T 8	平瓦	横方向の縄目叩きの後、ナデ	9本	布目痕の上に縦方向の縄目叩き	27×24			1mm前後の細粒を少量含む	良	灰(7.5Y%) 灰白(7.5Y%)	灰(7.5Y%) 灰白(7.5Y%)	端面上部自然釉
33	T 8	〃	斜め・横方向の縄目叩きの後、横方向のナデ	10本	布目痕の上に縄目叩き、縦方向のナデ				0.5~2mmの砂粒、粒状の褐鉄鉱を含む	やや軟	灰黄(2.5Y%) 黄灰(2.5Y%)	灰黄(2.5Y%)	
34	T 4	〃	横方向の縄目叩きの後、横方向のナデ	10本	布目痕、一部横ナデ				0.5mm以下の細砂粒を含む	良	灰白(5Y%)	にぶい黄橙(10YR%) 灰白(2.5Y%)	
35	T 8 SH2	〃	斜め方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ	10本	布目痕の上にナデ	21×24			0.5~1mmの砂粒を含む	やや軟	灰白(7.5YR%) 灰褐(7.5YR%)	灰白(7.5YR%) 灰褐(7.5YR%)	
36	T 7	〃	横方向の縄目叩きの後、ナデ	7本	一部布目痕	12×16			微粒子を少量含む	良	褐灰(10YR%) 淡黄(2.5Y%)	褐灰(10YR%)	凹面に黄赤斑、捺痕面15.8mm
37	T 4 SH1	〃	横方向の縄目叩きの後、縦方向のナデ	8本	横方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ		凸面・凹面に面取り		0.5~2mmの砂粒を多く含む	やや軟	灰白(2.5Y%)	灰白(2.5Y%)	凸面・凹面に離れ砂
38	T 4	〃	横方向の縄目叩きの後、斜め方向のナデ	10本	斜め方向のナデ				微粒子を少量含む	やや軟	灰黄褐(10YR%)	灰黄褐(10YR%)	
39	T 8 SH1	〃	叩き版による斜め方向のナデ、指ナデ		布目痕の上に叩き版による斜め方向のナデ	27×18			1.5mmの高師小槽、砂粒を少量含む	良	浅黄(2.5Y%)	浅黄(2.5Y%)	凸面・凹面に指頭痕
40	T 8 SH1	〃	叩き版による縦・横方向のナデ		布目痕の上に叩き版による斜め方向のナデ		凸面に面取り		1mm前後の砂粒を含む	やや軟	灰白(2.5Y%)	灰白(2.5Y%)	凸面に指頭痕
41	T 1 SE	〃	斜格子目叩き	8×6mm			凸面に面取り		0.5~2mmの砂粒を含む	軟	浅黄橙(10YR%)	浅黄橙(10YR%)	
42	T 4	丸瓦	横方向の縄目叩きの後、縦・斜め方向のナデ	9本	横方向の縄目叩きの後、布目痕・横方向のナデ	21×21			粒状~塊状の褐鉄鉱を含む	やや軟	にぶい黄橙(10Y%)	灰白(10YR%)	

表3-(3)

連物 番号	出土区	種類	凸面調整	縄目糸数	凹面調整	布目の 経緯数	側面調整	端面調整	胎土	焼成	色		備考
											凸面	凹面	
43	T 4 SH1	丸瓦	横方向の縄目叩きの後、 一部縦方向のナデ	10本	布目痕の上に一部横 方向の縄目叩き 後、横方向のナデ	18×18			口径・長さ3mmの高師小漕、 粒状の褐鉄鉱、砂粒を含む 粒床～塊状の褐鉄鉱、0.5mm以 下の砂粒を少量含む	良	灰白(2.5Y%) 灰白(7.5Y%)	にぶい黄橙(10YR%) 灰白(7.5Y%)	
44	T 4 SH1	◇	横方向の縄目叩きの 後、縦方向のナデ	10本	横方向の縄目叩きの 後、横方向のナデ				粒床～塊状の褐鉄鉱、0.5mm以 下の砂粒を少量含む	やや軟	灰(5Y%)	漆黄(2.5Y%)	
45	T 4 SH1	◇	横方向の縄目叩きの 後、縦方向のナデ	10本	縦方向のナデ				1mm前後の砂粒を少量含む	やや軟	灰白(7.5Y%)	灰白(7.5Y%)	
46	T 8	◇	横方向の縄目叩きの 後、斜め方向のナデ	11本	斜め方向の縄目叩き ナデ、一部叩き板に よるナデ				0.5～2mmの砂粒と粒状～塊状 の褐鉄鉱を含む	やや軟	褐灰(7.5YR%)	明褐灰(7.5YR%)	
47	T 6	◇	縄目叩きの後、横方 向のナデ						1～2mmの砂粒を極く少量含 む	堅 緻	灰(10Y%)	灰(10Y%)	
48	T 8	◇	斜め方向の平行叩き	10本	布目痕の上に指ナデ				微粒子を少量含む	良	灰(N%)	灰(N%) にぶい黄橙(10YR%)	



第31图 寺崎遺跡出土土器実測図

表4 寺崎遺跡土器観察表

遺物番号	出土区	種別	器種	法		cm	調			胎	土	色		調	焼成	備考
				口径	高さ		底径	外面	内面			底面	外面			
1	8T SEI	土師器	坏	9.9	3.6	4.6	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	細砂粒を少量含む		橙(5YR%)	橙(5YR%)	良		
2	8T SHI	〃	高台付埴		3.0+α	8.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	0.5~2mmの砂粒を多量含む		橙(5YR%) 暗灰黄(2.5Y%)	橙(5YR%)	やや軟		
3	5T	〃	坏	12.3	4.5	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り?	微細~2mmの砂粒、黒色に光る砂粒を含む		浅黄橙(10YR%)	浅黄橙(10YR%)	良	内面に炭化物付着	
4	A	〃	坏	11.2	3.9	8.2	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラ切り	金色に光る砂粒、細砂粒を含む		灰黄(2.5Y%)	灰(5Y%)	良		
5	7T	〃	高台付埴	15.0	6.0	6.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	微細~2mmの砂粒、金色に光る砂粒を含む		橙(2.5YR%) 橙(5YR%)	橙(5YR%)	やや軟		
6	3T	〃	高台付埴		6.7+α	13.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラ切り	白色、黒色に光る砂粒、0.5~3mmの砂粒を少量含む		橙(7.5YR%)	橙(7.5YR%)	やや軟		
7	A	〃	高台付埴	11.7	4.4	6.8	ヨコナデ ナナメのナデ	ヨコナデ	ナデ	金色、白く透明に光る砂粒、細砂粒を少量含む		にぶい黄橙(10YR%)	にぶい黄橙(10YR%)	良		
8	2T	〃	小皿	8.6	1.3	6.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラ切り	きめ細かい 細砂粒を少量含む		浅黄橙(10YR%)	浅黄橙(10YR%)	良		
9	8T	〃	坏蓋	19.2	4.0		ヨコナデ ミガキ	ヨコナデ		きめ細かい 細砂粒を少量含む		橙(2.5YR%)	橙(2.5YR%)	良	暗土器	
10	5T 8T	〃	坏	17.0	5.2		ヨコナデ	ヨコナデ		きめ細かい 細砂粒を少量含む		橙(2.5YR%)	橙(2.5YR%)	良	暗土器	
11	8T	〃	蓋	18.4	3.95		ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	2mm以下の砂粒を多量含む 無色透明、黒く光る砂粒を多量含む		橙(5YR%)	橙(5YR%)	良	生焼け? 環状掘み	
12	8T	須恵器	坏身	10.4	2.9		ナデ・ケズリ	ナデ		0.5mm前後の砂粒を含む		灰(5Y%)	灰(5Y%)	堅	外面に一部白 然釉	
13	8T	〃	坏蓋	13.5	3.3		ナデ	ナデ		2mm前後の砂粒、細砂粒を含む		灰(5Y%)	灰(5Y%)	堅	玉珠掘み	
14	8T	〃	坏蓋		2.7+α		ナデ ヘラケズリ	ナデ		微粒子を多量含む		灰白(2.5Y%)	灰白(2.5Y%)	やや軟	玉珠掘み	
15	8T	〃	坏蓋	15.5	1.3+α		ナデ	ナデ		微細~2mmの砂粒を含む		褐灰(10YR%)	褐灰(10YR%)	堅	緻	
16	4T SHI	〃	坏蓋	14.4	2.8+α		ナデ	ナデ		微細~1.5mmの砂粒を多量含む		灰白(N%)	灰白(N%)	やや軟		
17	8T	〃	坏蓋	14.9	1.3+α		ナデ	ナデ		きめ細かい		淡黄(5Y%) 灰(N%)	灰(5Y%)	堅	緻	
18	A	〃	蓋	17.7	3.4		ナデ	ナデ		微細~2mmの砂粒を少量含む		灰(N%)	暗灰黄(2.5Y%)	堅	転用硯 環状掘み	
19	3T	〃	高台付埴	16.3	3.9	12.2	ナデ	ナデ	ナデ	0.5~2mmの砂粒を少量含む		オリーブ黄(5Y%)	オリーブ黄(5Y%)	良	転用硯	
20	18T	〃	高台付埴	19.5	4.8	10.8	ナデ	ナデ	ナデ	細砂粒を少量含む		灰(5Y%)	灰(5Y%)	堅	緻	
21	3T	〃	高台付埴		1.7+α	6.4	ナデ	ナデ	ナデ	0.5~2mmの砂粒を少量含む		暗灰(N%)	暗灰(N%)	堅	緻	
22	8T	〃	高坏	14.2	3.1+α		ナデ	ナデ	ナデ	1mm前後の砂粒を含む		灰オリーブ(5Y%)	灰オリーブ(5Y%)	堅	緻	

第Ⅳ章 ま と め

昭和63年度から平成2年度の3ケ年にわたって行なわれた国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査の結果、次のことが分かった。

第一に国府の所在地に関しては中間台地上の稚児ヶ池と都萬神社に挟まれた地区一帯の推定地D⁽⁷⁾(妻～芻田)が立地や布目瓦の出土分布状況から有力な候補地として浮上してきた。また西都市教育委員会の調査でも都萬神社の西側の畑から軒丸瓦の出土・版築(?)の検出などからも補強されつつある⁽⁸⁾。今回、試掘調査した寺崎遺跡では方形プランの柱穴を有する主軸が東西方向の掘立柱建物群が確認された。7世紀末～8世紀後半の須恵器、畿内地方の搬入土器と思われる螺旋状の暗文を施した土師器坏蓋・身、転用硯、凸面縄目叩きの平瓦の出土から更に補強された。ただ印鑰神社の北側の推定地B(三宅)からも軒丸瓦や布目瓦が出土しており、まだ可能性も残っている。しかし、沖積地の推定地C(右松)・D'(妻～芻田)は立地的に困難であり、推定地から除外しても問題ないと思われる。

第二に国分寺については平成元年の試掘調査では主軸が東西方向の2間×5間以上の掘立柱建物が検出され、「僧房」と推定されており、伽藍配置の一部が明らかにされた⁽⁹⁾。しかし、国分尼寺については昭和63年度に試掘調査が行われた諏訪遺跡では残念ながら関連する遺構は検出されなかった⁽¹⁰⁾。

第三に国分寺跡・寺崎遺跡で出土している凸面横縄目叩きの平瓦と須恵器は、佐土原町教育委員会が平成元年度に試掘調査を行った下村窯跡(佐土原町)で生産された可能性が高まった。しかし、国分寺で出土している凸面格子目叩きの平瓦は下村窯跡では出土していないが、地点は不明であるが、下村の表採資料にはある⁽¹¹⁾。また下村窯跡が存在する丘陵の西側の丘陵分布調査を行った結果、2ヶ所で布目瓦・須恵器が表採され窯跡の存在が推定される。

以上のように3ケ年にわたる分布調査の結果、本調査の主目的である国府の推定地が特定できたことは大きな成果であるが、国府の範囲・政庁の配置など不明な点が非常に多く、やっと端緒を掴んだだけであるので今後の調査に負うことが大である。

註

- (1) 宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺等遺跡詳細分布調査概要報告書』Ⅱ 平成2年(1990)
- (2) 佐土原町教育委員会「佐土原町遺跡詳細分布調査報告書」『佐土原町文化財調査報告書』第4集 平成2年(1990)には、山田第3遺跡として報告されている。

なお、分布の詳細については、佐土原町教育委員会・木村明史氏より御教示頂いた。

(3) 宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺等遺跡詳細分布調査概要報告書』Ⅰ 平成元年(1989)

(4) 土地の古老の話では、叶迫は「カナイザコ」であり、谷部を整地した時「カナクソ」が出たとの事であった。

(5) 石川恒太郎『宮崎県の考古学』吉川弘文館 昭和43年(1968)の342頁に、「六. 佐土原町東上那珂の瓦窯跡

これは宮崎郡佐土原町東上那珂の那珂小学校西方にある池の畔にあるもので、瓦を焼いた窯跡である。まだ学術調査は行なわれていないが、もと同所にあった那珂中学校(現在は北方に移って佐土原西中学校となった)にはここから出た大形の格子目文の平瓦に窯壁の付着したものが所蔵されていた。」とある。(傍点筆者)

(6) 文化財保護委員会『全国遺跡地図(宮崎県)』国土地理協会 昭和43年(1968)の地図上の地点は、那珂小学校付近に窯跡のマークがあり、所在地は東上那珂今坂池となっているが、実際の今坂池は佐土原中学校の北側にあり、若干の混同があると思われる。

(7) 註3に同じ。以下の推定地は註3の文献による。

(8) 西都市教育委員会が行った平成2年度の遺跡詳細分布調査による。

(9) 註1に同じ。

(10) 註3に同じ。

(11) 註3に同じ。

圖 版



1. 昭和63年度試掘調査地 2. 3. 平成元年度試掘調査地 4. 平成2年度試掘調査地

西都市調査地周辺の地形



日向国分寺跡 11トレンチ全景



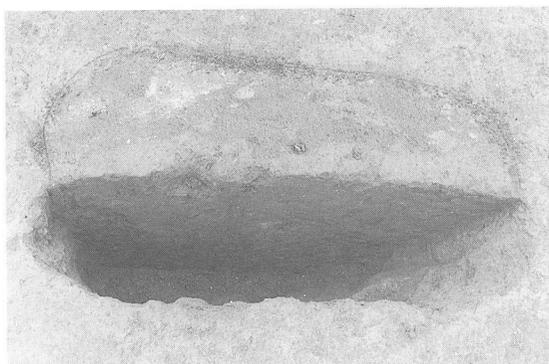
日向国分寺跡 11トレンチ遺構の状態



日向国分寺跡 SB1・SB2 東妻部柱穴の状態(南から)



同 上(北から)



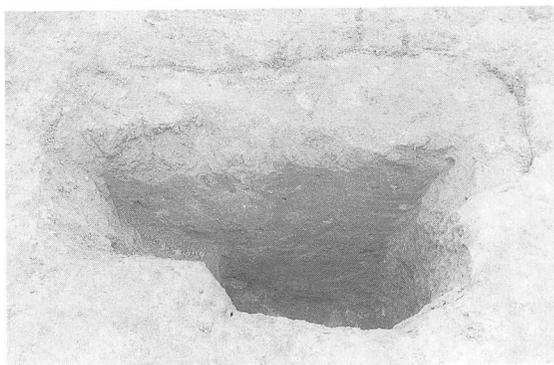
SB1 P2



SB1 P3

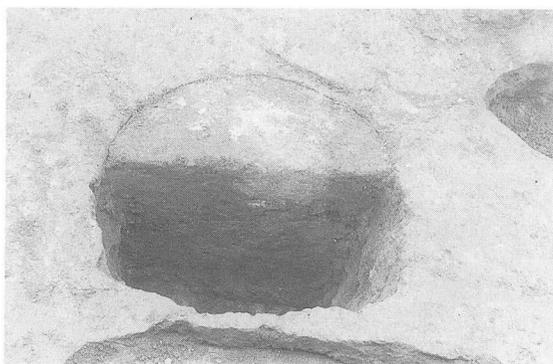


SB1 P4

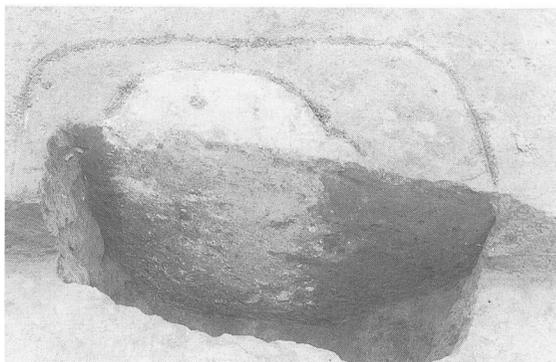


SB1 P9

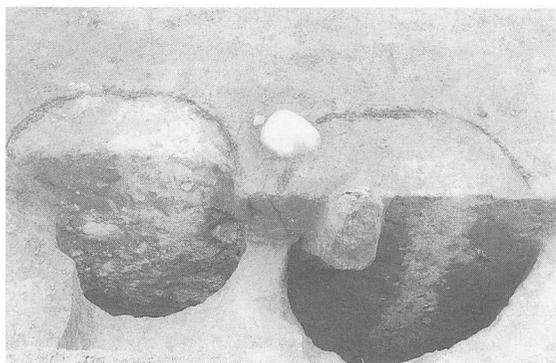
日向国分寺跡 SB1



SB1 P6



SB1 P7



SB2 P10・SB1 P8

日向国分寺跡 SB1・SB2



上尾筋遺跡 1 トレンチ遺構の状態(北から)



上尾筋遺跡 1 トレンチ遺構の状態(南から)



上尾筋遺跡 2 トレンチ遺構の状態(北西から)



上尾筋遺跡 2 トレンチ遺構の状態(南から)



寺崎遺跡 トレンチ



寺崎遺跡 7トレンチ

国衙・郡衙・古寺跡等
遺跡詳細分布調査報告書 Ⅲ

1991年3月

発行 宮崎県教育委員会
編集 宮崎県教育庁文化課